

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11S001B		総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅠ（ベーシック） English Oral Communication Ⅰ (Basic)	1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	文部科学省は以前、『英語が使える日本人』育成のための戦略構想』を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていればよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、 ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。一方では、 英検の資格取得やTOEIC などによる数値目標が設定され、それを卒業要件として達成することを求めている大学もあります。 本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始める。中学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つめなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とする。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性をはっきりと見えてくるはずです。 焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。							
	キーワード	・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢 ・TOEIC／英検	学修教育目標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、 意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
日常生活でよく使われている動詞中心の日常動作表現の修得を目指してください。[動詞＋目的語]という一つのくくり付けをして覚えるようにしましょう。例えば、Answer the cellphone ((携帯)電話に出る)であれば、[動詞(answer)＋ 目的語(the cellphone)]のようになります。すべての表現を何度も音読して、しっかりと自分のものにしてください。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な英文法の知識が基礎となります。英検 4 級にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions 著者名：小中 秀彦 出版社：南雲堂				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性						
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。					○
		② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。					○
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45				55			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価						55			55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		45							45
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検 4 級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 270 点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検 4 級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション：「課題研究」による成績評価について	対面授業		
第 2 回 ／	Lesson 1: Living Room & Bedroom	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 3 回 ／	Lesson 2: Kitchen	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 4 回 ／	Lesson 3: Bathroom	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 5 回 ／	Lesson 4: Housekeeping	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 6 回 ／	Lesson 5: Jobs (1)	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 7 回 ／	Lesson 6: Public Transportation	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 8 回 ／	Lesson 7: Car	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 9 回 ／	Lesson 8: School	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 10 回 ／	Lesson 9: Hospital	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 11 回 ／	Lesson 10: Office	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 12 回 ／	Lesson 11: Sports	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 13 回 ／	Lesson 12: Leisure	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 14 回 ／	Lesson 13: Shopping	課題研究	学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11S001S		総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅠ（スタンダード） English Oral Communication Ⅰ (Standard)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	文部科学省は以前、『英語が使える日本人』育成のための戦略構想』を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていればよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。一方では、英検の資格取得やTOEIC などによる数値目標が設定され、それを卒業要件として達成することを求めている大学もあります。 本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始める。高等学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つめなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とする。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性がはっきりと見えてくるはずです。焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。								
	キーワード	・ グローバル時代の英語 ・ 英語を使う時の「外向き」姿勢 ・ TOEIC／英検		学修教育目標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われていいます。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言									
[概要] 会話演習の後、「基本形」，「Quiz」，そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解します。尚，これらの学修内容から課題研究を作成します。 [学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も，知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために，英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと，学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準は英検、TOEIC など様々です。英検準2級にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：A Shorter Course in English for Business Communication 著者名：Gary I. Anderson 出版社：南雲堂				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。								
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。								
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。								
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。 ◎						
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。 ○						
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性							
		② 働きかけ力							
		③ 実行力		基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 ○					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力							
		② 計画力							
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。 ○					
		② 傾聴力		基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。 ○					
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。 ○					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45				55			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価						55			55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		45							45
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検準 2 級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 450 点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検準 2 級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション：「課題研究」による成績評価について	対面授業		
第 2 回 ／	Lesson 1: Stating the Purpose of a Contact 目的を告げる（対面・電話・メール）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 3 回 ／	Lesson 2: Meeting for the First Time 初対面をする	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 4 回 ／	Lesson 3: Presenting a Business Card 名刺を渡す	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 5 回 ／	Lesson 4: Transferring a Call 電話をつなぐ	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 6 回 ／	Lesson 5：Phone Troubles 電話のトラブル	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 7 回 ／	Lesson 6：At the Airport Abroad 海外の空港で	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 8 回 ／	Lesson 7：Making Polite Requests 丁寧に依頼する(メール/ 電話・対面)	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 9 回 ／	Lesson 8：Taking and Leaving Telephone Messages 伝言を承る・残す	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 10 回 ／	Lesson 9：Making Inquiries 問い合わせをする(メール/ 電話・対面)	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 11 回 ／	Lesson 10：Making Appointments 1 アポを取る(メール)/ 小テストの実施	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 12 回 ／	Lesson 11：Stating Requests Clearly はっきりと要求を述べる(メール/ 電話)	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 13 回 ／	Lesson 12：Making Apologies 詫びる(メール/ 電話)	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 14 回 ／	Lesson 13：Making Appointments 2 アポを取る(電話・対面)	課題研究	学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11S001A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅠ（アドバンス） English Oral Communication Ⅰ (Advanced)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	このコースを受講する学生には、英語でのコミュニケーションスキルを向上させ、自信と流暢さを身に付けるよう学びます。							
キーワード			学修教育目標					
	・コミュニケーションスキル ・会話			実践的な会話練習により、より自然な英会話スキルを身につける。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
[概要] 第一に会話を聞いて、その内容をとらえる。会話の大意がとらえられたら、テキストの語彙を調べ「基本形」を確認し、使えるよう練習を行う。第二にリスニング、ディクテーションにより会話を自分のものにし、構文を学ぶことによりスピーキングへとつなげていく。 [学修上の助言] 最初は会話の細部にとらわれず、聞き取れた単語から全体を推測すること。大意がとらえられるようになったら、「基本形」を覚え、パターンプラクティスにより自分の会話ができるようにすること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「Let’s Talk 2 Second Edition」と連動。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Let's Talk 2 Second Edition 著者名：Leo Jones 出版社：Cambridge				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		企業で働く際に必要な基礎力を身に着ける。					○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自分の意見を持つ。				○
		② 働きかけ力		自分の考えを伝えることができる。				○
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		基本的な英語を使って、自分の意見を発信できる。				○
		② 傾聴力		基本的な英語を使っての日常会話で、相手の話す内容が理解できる。				○
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50	10					40	
評 価 の 指 標	知識に関する評価	50	10							60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価							40		40
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
修得した基礎知識を，現実の場面で基礎力から応用力への技能としての英語力に変える ことができている。					修得した基礎知識を，現実の場面で基礎レベルの技能としての英語力に変えることが できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション Lesson1: “Getting started” pp2-3 lessons 1A, 1B pp4-7 言語/文法 時制の復習	●対面授業 授業方法、使用テキスト、評価の仕方などの説明と質問に答える。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 2 回 ／	Lesson2:” Meeting new people” lessons 1A, 1B pp4-7 ロールプレイでの語彙 言語/文法 主語としての動名詞 it+不定詞	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 3 回 ／	Lesson 3: ”” Food, likes/dislikes レストラン：ロールプレイ lessons3A, 3B pp12-15	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 4 回 ／	Lesson 4: “Weather” lessons 4A, 4B 実条件法	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 5 回 ／	Lesson 5: “Workplace” lessons 5A, 5B 形容詞	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 6 回 ／	Lesson 6 : ” Hobbies/ interests” lessons 6A, 6B 非現実的的条件法	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 7 回 ／	Lesson 7 : ” Sports : Playing and watching” lessons 7A, 7B 語彙の連結	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。 小テスト対策	90
第 8 回 ／	小テスト Lesson 8 : ” Transport : Getting Around Town” lessons 8A, 8B 形容詞と比較級	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 9 回 ／	Lesson 9 : ” Vacations” lessons 9A, 9B 過去形/現在完了 復習と練習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 10 回 ／	Lesson 10 : ” Gadgets/devices” Lessons 9A, 9B 形式:必要性と提案	●対面授業 既習事項から小テストを行う。 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 11 回 ／	Lesson 11 : ” Environment” lessons 11A, 11B 直接的と間接的な質問	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 12 回 ／	Lesson 12 : ” The News” lessons 12A, 12B 過去の時間表現	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 13 回 ／	Lesson 13 : ” City Life” lessons 13A, 13B 句動詞	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。 課題（ポートフォリオ）提出準備。	90
第 14 回 ／	Lesson 14 : ” Entertainment and Art” lessons 14A, 14B 数量詞	●対面授業 課題提出。 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。 学期末試験についての説明。	学期末試験対応	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLF11F002B		総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（ベーシック） English Oral Communication Ⅱ (Basic)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013 年 12 月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。これは東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年に全面実施を目指す将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。 本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。									
	キーワード	・ グローバル時代の英語 ・ 英語を使う時の「外向き」姿勢 ・ TOEIC／英検	学修教育目標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われていま す。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラル コミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢，すなわち英語使用への積極的な気持ち をさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え，意見をしっかりと発表できることを学 修教育目標とする。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
日常生活でよく使われている動詞中心の日常動作表現の修得を目指してください。[動詞＋目的語]という一つのくくり付けをして覚えるようにしましょう。例えば、Answer the cellphone（(携帯)電話に出る)であれば、[動詞(answer) ＋ 目的語(the cellphone)]のようになります。すべての表現を何度も音読して、しっかりと自分のものにしてください。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英検 3 級にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions 著者名：小中 秀彦 出版社：南雲堂				なし						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。									
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。						◎	
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性								
		② 働きかけ力								
		③ 実行力		基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力								
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。						○
		② 傾聴力		基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。						○
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性		アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45				55			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価						55			55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		45							45
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検 3 級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 300 点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検 3 級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション：「課題研究」による成績評価について	対面授業		
第 2 回 ／	Lesson 14: Restaurant	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 3 回 ／	Lesson 15: Jobs(2)	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 4 回 ／	Lesson 16: Street	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 5 回 ／	Lesson 17: Crime & Accident	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 6 回 ／	Lesson 18: Party	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 7 回 ／	Lesson 19: Airport	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 8 回 ／	Lesson 20: Playground	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 9 回 ／	Lesson 1~2 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 10 回 ／	Lesson 3~4 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 11 回 ／	Lesson 5~6 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 12 回 ／	Lesson 7~8 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 13 回 ／	Lesson 9~10 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 14 回 ／	Lesson 11~13 の復習	課題研究	学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11F002S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（スタンダード） English Oral Communication Ⅱ (Standard)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013 年 12 月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。これは東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年に全面実施を目指す将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。 本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。							
	キーワード ・ グローバル時代の英語 ・ 英語を使う時の「外向き」姿勢 ・ TOEIC／英検		学修教育目標	今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われていま す。学生には社会人基礎力で言う、「一步前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラル コミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢，すなわち英語使用への積極的な気持ち をさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え，意見をしっかりと発表できることを学 修教育目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
〔概要〕 発音の分かりにくい単語があれば正しい発音を辞書等で確認し、しっかりと学修すること。会話演習の後，「基本形」，「Quiz」，そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し，確認して行きます。 〔学修上の助言〕 英語学習によって身に付いた知識も，知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために，英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと，学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準は英検、TOEIC など、様々です。英検 2 級にチャレンジしてみましょう。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：A Shorter Course in English for Business Communication 著者名：Gary I. Anderson 出版社：南雲堂				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。 ◎					
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性						
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 ○					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。 ○					
		② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。 ○					
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。 ○					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45				55			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価						55			55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		45							45
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検 2 級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 500 点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検 2 級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション：「課題研究」による成績評価について	対面授業		
第 2 回 ／	Lesson14：Notification of Absence 不在を知らせる	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 3 回 ／	Lesson 15：Confirming Your Understanding 理解の確認をする（メール・電話・対面）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 4 回 ／	Lesson 16：Informing of Email Attachments 添付の案内をする（メール/ 電話・対面）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 5 回 ／	Lesson 17：Inquiring about Job Openings 求人について問い合わせる（メール）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 6 回 ／	Lesson 18：Making Suggestions 1 提案をする（電話・対面）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 7 回 ／	Lesson 19：Making Suggestions 2 提案をする（メール）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 8 回 ／	Lesson 20：Informing of Personnel Changes 異動を知らせる（メール）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 9 回 ／	Lesson 21：Parting お別れを言う（対面/ メール）	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 10 回 ／	Lesson 1～3 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 11 回 ／	Lesson 4～6 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 12 回 ／	Lesson 7～9 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 13 回 ／	Lesson 10～12 の復習	課題研究	次回、学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第 14 回 ／	Lesson 13 の復習	課題研究	学修する教科書のすべての英文を 10 回づつ、音読する。基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF11F002A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（アドバンス） English Oral Communication Ⅱ (Advanced)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	春学期で行われた進歩に基づいて進めます。コミュニケーションスキルを向上させるさらなる機会を増やし、この事を通じて、自立的・効果的な英語話者として自信を持って成長出来る事を目指します。							
	キーワード ・コミュニケーションスキル ・会話		学修教育目標	実践的な会話練習により、より自然な英会話スキルを身につける。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
[概要] 第一にテキストを聞いてその内容を推測する。テキストの大意をとらえることができれば、語彙を調べ「基本形」を確認する。第二にディクトグロスによりテキストを再生していく。練習問題を解くことにより会話の確認を行い、スピーキングへとつなげていく。 [学修上の助言] ディクトグロスは、リスニングの練習をしながら同時に、文法と語彙も鍛えるトレーニング法である。複数名でディクテーションすることにより、一人では聞き取れなかったところや、文法、構文を確認し、発話へとつなげていくのに有効である。はずかしがらず積極的にお互いの意見を出し合うことが必要である。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「Let’s Talk 2 Second Edition」 と連動。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Let's Talk 2 Second Edition 著者名：Leo Jones 出版社：Cambridge				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		企業で働く際に必要な基礎力を身に着ける。○					
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性						
		② 働きかけ力						
		③ 実行力		基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。○				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		基本的な英語を使って、自分の意見を発信できる。○				
		② 傾聴力		英語での日常会話で相手の言っている内容が理解できる。○				
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	10				40		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価							40		40
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
修得した基礎知識を，現実の場面で基礎力から応用力への技能としての英語力に変えることができる。					修得した基礎知識を，現実の場面で基礎レベルの技能としての英語力に変えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	Lesson 15：指定範囲内の春学期の未解決の部分の復習	●対面授業 授業方法、使用テキスト、評価の仕方などの説明と質問に答える。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 2 回 ／	Lesson 16：学習効果の診断目的のクラステスト テストにより明らかになった潜在的な問題領域(語彙・文法など)に焦点をあてクラス修正とフィードバック	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 3 回 ／	Lesson 17：“get-to-know” スピーキング活動 1:文脈を知るためのロールプレインをペアまたはグループで行う。資料はテキストから決める	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 4 回 ／	Lesson 18：“making plans” スピーキング活動 2:未来形（‘will’ VS ‘be going to’）を使い予定に関するロールプレインをペアまたはグループで行う	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 5 回 ／	Lesson 19：“going out” 復習とプレゼンテーション 提案・提示・要求に関するプレゼンテーションと練習 飲食店でのロールプレインをペアまたはグループで行う	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 6 回 ／	Lesson 20：“your life” 現在完了（‘for’ , ‘since’）の復習とプレゼンテーションと練習 ペアまたはグループワーク	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 7 回 ／	Lesson 21：“how often?” 頻度の副詞の復習とプレゼンテーションと練習 日常活動(家庭・職場・買い物など)の会話のペアまたはグループワーク	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。 小テスト対策	90
第 8 回 ／	Lesson 22：クラステスト 秋学期の総復習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 9 回 ／	Lesson 23：総復習 クラステストによる問題領域の復習とプレゼンテーション及び会話の実践	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 10 回 ／	Lesson 24：“like and likes” like を使用した練習と実践コミュニケーション練習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 11 回 ／	Lesson 26：“It’ s time” 時間に関する文章の復習とプレゼンテーションと練習 前置詞・冠詞	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 12 回 ／	Lesson 27：“apple & apples” 加算名詞、不可算名詞の復習とプレゼンテーションと練習 記述言語の練習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。	90
第 13 回 ／	Lesson 28：“what do you think?” アドバイスや提案の復習とプレゼンテーションと練習 ペアまたはグループでコミュニケーション練習	●対面授業 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。	語彙、基本形を覚え発話練習。 課題（ポートフォリオ）提出準備。	90
第 14 回 ／	Lesson 21：“what do you think?” 意見を伝える 賛成と反対 クラスディスカッション	●対面授業 課題提出。 リスニング、基本形の習得、Quiz、練習問題などテキストに沿って進める。 学期末試験についての説明。	学期末試験対応	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F005S		総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		役立つ英語（基礎） English Language（Basic Class）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		一般企業の入社試験を受けるにあたり、今や就職試験に不可欠である SPI は受験者の「論理的思考能力と性格を測定するためのテスト」である。その中での ENG は、ほかの SPI 試験と併せて行われる英語能力検査であるが、これは英語そのものの知識を問うものではなく、英語の使い方にとどのくらい慣れているかをみることを目的としている。 通常の SPI 試験（主として国語と数学）では絞りきれない就職希望者は、第3の SPI 英語能力検査によって合否が決定されることが多いのが現状である。 ENG（SPI 英語能力試験）の対策を行うことによって就職試験を有利に乗り越えることがこの授業の目的である。								
キーワード		就職試験 英語能力検査 (ENG) 対策		学修教育目標		ENG は比較的やさしいレベルであるが、選択肢を選ぶための条件の指定文と設問の数が非常に多い。これには実社会で必要な「速くそして正確に」が要求されていると考えられる。 問題別パターンを、基本的な問題を解くことによって、この要求に応えられる「問題に慣れる」ことを目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
ENG 模擬試験問題の各項目を学習することにより、問題のパターンに慣れていく。自分で辞書を引いて単語（同意語、反意語）、熟語を覚え、春学期実施の「知って得する英語（応用）」につなげていく。 各自、英語辞書を必ず持参し、自分で単語を引き、その都度覚えていくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「知って得する英語（応用）」につながる。 知らない単語、熟語は確実に覚えていくこと。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
プリント配布					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。									
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。									
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			全ての判断の基礎は基礎知識にある。英語においても就職試験対策は土台である英単語にあるので、確実に覚えて長文を解くための判断力へとつなげること。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			わからない単語は自分から辞書を引き覚える。					
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			単語の意味を知らなくても、同一性を見つける方法を考える。					
		② 計画力			ENG 検査に合格するために計画をたて、実行努力していく。					
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45		40				15	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		45		30					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10				15	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習した単語、熟語だけでなく、関連する単語、熟語にまで幅を広げ、覚えている。					学習した単語、熟語の意味がわかる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション	面接授業		
第 2 回 ／	同意語－1	課題配信授業		
第 3 回 ／	同意語－2	課題配信授業		
第 4 回 ／	同意語－3	課題配信授業		
第 5 回 ／	2～4 回の課題の解答と解説	課題配信授業		
第 6 回 ／	同意語－4	課題配信授業		
第 7 回 ／	同意語－5	課題配信授業		
第 8 回 ／	6、7 回の課題の解答と解説	課題配信授業		
第 9 回 ／	反意語－1	課題配信授業		
第 10 回 ／	反意語－2	課題配信授業		
第 11 回 ／	9、10 回の課題の解答と解説	課題配信授業		
第 12 回 ／	反意語－3	課題配信授業		
第 13 回 ／	反意語－4	課題配信授業		
第 14 回 ／	第 12，13 回の解答と解説。課題提出。	面接授業		
注意事項 ／	上記授業計画はコロナ禍の状況により変更されることがある。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F005S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ英語（基礎） English Language（Basic Class）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	公務員・教員採用一般教養英語試験対策として、まず初めに、採用試験に要求される英語の基本的な事項を確認する。基本レベルの確認作業を通じて、各受講生が今現在、どの程度の英語力を身につけているかを自覚することにより英語力を改善するために努力することを目的とする。							
キーワード			学修教育目標					
	日常で使える英語表現			各受講生が現時点での英語力について自覚することにより、英語の学習面において自分の弱点を十分に認識し、最終的にはその弱点を完全に、克服することを目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
“communication”であるとか“business”などといった既に日本語としても機能する英語表現は日常にあふれている。 だから受講生はできるだけ英語というものに苦手意識を持たずに取り組んでいただきたい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「オーラルコミュニケーションⅠ」の理解につながる。公務員・教員採用試験についての情報はインターネット上で、かなり豊富に入手できるので活用する習慣をつけておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：『We love L.A.！／L.A. イングリッシュ・ライフ』 著者名：Robert Hickling／臼倉美里 出版社：金星堂				プリント教材				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		教員採用試験に要求される英語の基本的な事項を確認する。					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		個々人で作成した英作文を発表することで他者の気持ちなどを類推する。					○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		学科に根ざした英語表現等を確認することでより自己の語彙力を拡張する。					◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		正確な英文作成能力を身につけることで創造性・あきらめず考え抜く力を得る。					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		学生間でのグループワーク・ペアワークなどを通じてより正確な英語表現とは何かを考察する能力を身につける。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		採用試験に向けて自ら情報を収集し、自発的に取り組むことができる。				◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力		採用試験に合格するという強い意志を持って試験対策に取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		採用試験の現状を理解し、合格に向けて努力することができる。				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合		55	45					
評 価 の 指 標	知識に関する評価		40	30						70
	技能に関する評価		10	10						20
	応用力に関する評価		5	5						10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各受講生が現時点での英語力について自覚することにより、英語の学習面において自分の弱点を十分に認識する。最終的には公務員・教員採用一般教養英語試験対策として十分に通用するものになることである。					ビジネスの場面でも教養試験・資格試験などでも頻繁に使用されるのは、日常的な表現である。このクラスでは、テスト問題をやりながら、英語が苦手だった人も楽しく学びながら、身の回りの表現ができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	Be 動詞	Be 動詞を解説し、例題にて理解度を 確認する。面接授業を予定している がコロナの影響によっては課題研究 の授業となる可能性もある。	・ Be 動詞の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	Be 動詞の活用の違いを把握する			
第 2 回 ／	可算名詞・不可算名詞	可算名詞・不可算名詞の違いを解説 し、例題にて理解度を確認する。面 接授業を予定しているがコロナの影 響によっては課題研究の授業となる 可能性もある。	・ 可算名詞・不可算名詞の予習用プリントの問題を解 く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	可算名詞・不可算名詞の違いを把握する			
第 3 回 ／	一般動詞（現在時制）	一般動詞（現在時制）を解説し、例 題にて理解度を確認する。面接授業 を予定しているがコロナの影響によ っては課題研究の授業となる可能性 もある。	・ 一般動詞（現在時制）の予習用プリントの問題を解 く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	一般動詞（現在時制）の活用の把握			
第 4 回 ／	代名詞（1）	代名詞を解説し、例題にて理解度を 確認する。面接授業を予定している がコロナの影響によっては課題研究 の授業となる可能性もある。	・ 代名詞の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	代名詞のある文を的確に解釈することができる			
第 5 回 ／	代名詞（2）	代名詞を解説し、例題にて理解度を 確認する。面接授業を予定している がコロナの影響によっては課題研究 の授業となる可能性もある。	・ 代名詞の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	代名詞のある文を的確に解釈することができる			
第 6 回 ／	一般動詞（過去時制）（1）	一般動詞（過去時制）を解説し、例 題にて理解度を確認する。面接授業 を予定しているがコロナの影響によ っては課題研究の授業となる可能性 もある。	・ 一般動詞（過去時制）の予習用プリントの問題を解 く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	一般動詞（過去時制）の活用の把握			
第 7 回 ／	一般動詞（過去時制）（2）	一般動詞（過去時制）を解説し、例 題にて理解度を確認する。面接授業 を予定しているがコロナの影響によ っては課題研究の授業となる可能性 もある。	・ 一般動詞（過去時制）の予習用プリントの問題を解 く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	一般動詞（過去時制）の活用の把握			
第 8 回 ／	小テスト（1回 ～ 7 回目までの内容理解度を測定する）	小テストの後にこれまでの学習内容 の確認。面接授業を予定しているが コロナの影響によっては課題研究の 授業となる可能性もある。	・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	小テストを実施する			
第 9 回 ／	進行形の構文（1）	進行形の構文を解説し、例題にて理 解度を確認する。面接授業を予定し ているがコロナの影響によっては課 題研究の授業となる可能性もある。	・ 進行形の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	進行形の構文を的確に使用できる			
第 10 回 ／	進行形の構文（2）	進行形の構文を解説し、例題にて理 解度を確認する。面接授業を予定し ているがコロナの影響によっては課 題研究の授業となる可能性もある。	・ 進行形の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	進行形の構文を的確に使用できる			
第 11 回 ／	未来の表現（1）	未来の表現の構文を解説し、例題に て理解度を確認する。面接授業を予 定しているがコロナの影響によっ ては課題研究の授業となる可能性も ある。	・ 未来の表現の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	未来の表現の構文を的確に使用できる			
第 12 回 ／	未来の表現（2）	未来の表現の構文を解説し、例題に て理解度を確認する。面接授業を予 定しているがコロナの影響によっ ては課題研究の授業となる可能性も ある。	・ 未来の表現の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	未来の表現の構文を的確に使用できる			
第 13 回 ／	助動詞	助動詞を使った構文を解説し、例題 にて理解度を確認する。面接授業を 予定しているがコロナの影響によっ ては課題研究の授業となる可能性も ある。	・ 助動詞を使った表現の予習用プリントの問題を解く ・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	助動詞を使った表現の構文を的確に使用できる			
第 14 回 ／	小テスト（8回 ～ 14 回目までの内容理解度を測定する）	小テストの後にこれまでの学習内容 の確認。面接授業を予定しているが コロナの影響によっては課題研究の 授業となる可能性もある。	・ 授業で解いた練習問題を再度、解き全問正解にして おく	30
	小テストを実施する			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF22S005A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する英語（応用） English Language（Advanced Class）		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	「役立つ英語基礎」で学んだ SPI 試験の ENG（英語能力検査）対策を基礎として、実際の ENG 模擬試験問題に取り組むことによって、企業の採用試験対策を行うことを目的とする。							
	ENG 模擬試験問題 採用試験対策	学修教育目標	ENG を恐れることなく、就職におけるセンター試験 SPI 採用試験を受けることができることを目的とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
役立つ英語（基礎）に続いて、模擬試験問題の各項目を確認、勉強する。 自分で英語辞書を引いて、単語、熟語を覚え、文法を理解し、長文の読み取りに慣れていく。 1 に努力、2 に努力である。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「役立つ英語（基礎）」の続きである。基礎で学習したことを土台にし、応用していくことが求められる。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		暗記した一つの意味にとらわれず、その意味を理解し拡大解釈へとつなげていく力を身につける。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		わからないことは自分から誰かに相談し、答えを導く。				◎
		② 働きかけ力		①に同じ。				◎
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		何が問われているのか、何を調べればわかるのかを判断できる。				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45		40				15	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		45		30					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10				15	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
ENG を恐れることなく SPI 採用試験を受けることができる。					単語の持つ意味を理解し、その意味を拡大解釈できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション，授業（空所補充- 熟語編）	面接授業		
第 2 回 ／	空所補充 - 文，文法	課題配信授業		
第 3 回 ／	第 2 回目の空所補充問題解答と解説（答え合わせ，理解して覚える）	課題配信授業		
第 4 回 ／	英英辞典	課題配信授業		
第 5 回 ／	第 4 回目の英英辞典問題解答と解説（答え合わせ，理解して覚える）	課題配信授業		
第 6 回 ／	連立完成 - 1	課題配信授業		
第 7 回 ／	連立完成 - 2	課題配信授業		
第 8 回 ／	第 6、7 回目の連立完成問題解答と解説（答え合わせ，理解して覚える）	課題配信授業		
第 9 回 ／	長文読解 - 1（英文内容の推測）	課題配信授業		
第 10 回 ／	長文読解 - 2（問）	課題配信授業		
第 11 回 ／	第 9、10 回目の長文読解問題解答と解説（答え合わせ，理解して覚える）	課題配信授業		
第 12 回 ／	長文読解 - 3（日本語訳）	課題配信授業		
第 13 回 ／	第 12 回目の長文読解問題解答と解説（答え合わせ，理解して覚える）	課題配信授業		
第 14 回 ／	リメディアル、課題提出	面接授業		
注意事項 ／	上記授業計画はコロナ禍の状況により変更されることがある。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF22S005A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する英語（応用） English Language（Advanced Class）		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	公務員・教員採用一般教養英語試験対策として、役立つ英語(基礎)で学修した内容を基盤にし、過去に出題された問題を解くことにより採用試験に対応できる学力を身に付けることを目的とする。							
	キーワード 日常英語の応用		学修教育目標	過去に出題された問題を解くことにより、出題される問題の傾向を探り、対策を立てることから合格水準の英語力に到達できることを目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
“communication”であるとか“business”などといった既に日本語としても機能する英語表現は日常にあふれている。だから受講生はでこれまで学んできた日常英語を応用することで、自己表現能力を培う喜びを感じていただきたい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「オーラルコミュニケーション II」の理解につながる。公務員・教員採用試験に関する最新の情報をインターネット上から入手し、採用試験を取り巻く環境について詳しく、調べておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：『We love L.A.！／L.A. イングリッシュ・ライフ』 著者名：Robert Hickling／臼倉美里 出版社：金星堂				プリント教材				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		教員採用試験に要求される英語の基本的な事項を確認する。					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		個々人で作成した英作文を発表することで他者の気持ちなどを類推する。					○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		学科に根ざした英語表現等を確認することでより自己の語彙力を拡張する。					◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		正確な英文作成能力を身につけることで創造性・あきらめず考え抜く力を得る。					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		学生間でのグループワーク・ペアワークなどを通じてより正確な英語表現とは何かを考察する能力を身につける。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		採用試験に向けて自ら情報を収集し、自発的に取り組むことができる。				◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力		採用試験に合格するという強い意志を持って試験対策に取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		採用試験の現状を理解し、合格に向けて努力することができる。				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	55	45						
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40	30							70
	技能に関する評価	10	10							20
	応用力に関する評価	5	5							10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各受講生が現時点での英語力について自覚することにより、英語の学習面において自分の弱点を十分に認識する。最終的には公務員・教員採用一般教養英語試験対策として十分に通用するものになることである。					ビジネスの場面でも教養試験・資格試験などでも頻繁に使用されるのは、日常的な表現である。このクラスでは、テスト問題をやりながら、英語が苦手だった人も楽しく学びながら、身の回りの表現ができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	前置詞の応用・発展学習（１）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・前置詞について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	前置詞の意図の違いを把握する			
第 2 回 ／	前置詞の応用・発展学習（２）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・前置詞について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	前置詞の意図の違いを把握する			
第 3 回 ／	現在完了の・発展学習（１）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・現在完了について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	現在完了の意味を把握できる			
第 4 回 ／	現在完了の応用・発展学習（２）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・現在完了について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	現在完了の意味を把握できる			
第 5 回 ／	比較の応用・発展学習（１）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・比較構文について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	比較構文を把握できる			
第 6 回 ／	比較の応用・発展学習（２）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・比較構文について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	比較構文を把握できる			
第 7 回 ／	小テスト(1回 ～ 6回目までの内容理解度を測定する)	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	小テストを実施する			
第 8 回 ／	WH 疑問文の応用・発展学習（１）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・WH 疑問文について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	WH 疑問文を的確に解釈できる			
第 9 回 ／	WH 疑問文の応用・発展学習（２）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・WH 疑問文について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	WH 疑問文を的確に解釈できる			
第 10 回 ／	動名詞・不定詞の応用・発展学習（１）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・動名詞について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	動名詞を的確に解釈できる			
第 11 回 ／	動名詞・不定詞の応用・発展学習（２）	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・不定詞について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	不定詞を的確に解釈できる			
第 12 回 ／	接続詞の応用・発展学習	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・接続詞について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	接続詞を的確に使用できる			
第 13 回 ／	受動態の応用・発展学習	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・受動態について過去に出題された問題を解く ・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	受動態を的確に使用できる			
第 14 回 ／	小テスト(8回 ～ 14回目までの内容理解度を測定する)	問題の解答と解説。面接授業を予定しているがコロナの影響によっては課題研究の授業となる可能性もある。	・授業で解いた問題を再度、解き、全問正解にしておく	30
	小テストを実施する			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F003S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ韓国語（入門） Korean Language（Basic Class）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	韓国語は日本語と文法構造が大変似ているので日本語を母国語にしている人にとって学びやすい言語の一つである。 最初はハングル文字の発声方法から始め韓国語の音や文に慣れる練習を行う。 それから簡単な会話のやり取りを覚えることに重点をおいて演習を進めていく。							
キーワード	ハングル文字の仕組み 音読・訓読 文法・基本会話	学修教育目標	役に立つ韓国語入門終了後には、ハングル検定 5 級に合格することを目標としている。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
特になし。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：かんたん！韓国語 著者名：金殷模、権来順、宋貞喜、文慶 Chol 出版社：朝日出版社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。					◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	新しい言葉を学習する、ということで自ら積極的に取り組むことが出来る。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることが出来る。					◎
		② 計画力	韓国語の仕組み、文字の意味、発音の形態、文法の形成など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることが出来る。					○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性	新たな知識の習得に対する姿勢を学ぶことが出来る。					◎
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	30		20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価			10						10
	応用力に関する評価			10						10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価					20				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解し基礎会話ができることを望む。					韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	現代韓国や韓国語について 韓国語と日本語の類似点	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	基本あいさつ表現確認チェック			
第 2 回 ／	ハングルの基本母音と基本子音 1	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	基本母音の形と発音チェック			
第 3 回 ／	ハングルの基本母音と基本子音 2	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	基本子音の形と発音チェック			
第 4 回 ／	合成母音	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	合成母音を組み合わせた単語を覚える。			
第 5 回 ／	激音の発音	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	濃音、激音のある単語の読みチェック			
第 6 回 ／	パッチム（終声の仕組み）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	パッチムのある単語の読み方チェック 小テスト			
第 7 回 ／	韓国人ですか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 8 回 ／	学生ですか	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 9 回 ／	何時ですか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	数詞の発音をチェック			
第 10 回 ／	野球選手ではありません	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	単語の読み方をチェック			
第 11 回 ／	これは何ですか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	指示代名詞の使い方をチェック			
第 12 回 ／	どこにありますか	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	場所を表す単語チェック			
第 13 回 ／	何をしますか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	疑問文の使い方をチェック			
第 14 回 ／	何時に起きますか 全体のまとめ	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	練習問題を通じて助詞の使い方をチェック			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLF22S003A		総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー		知って得する韓国語（応用） Korean Language（Advanced Class）		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的											
	日本は歴史的にも地理的にも韓国と密接な関係を持っている。 この授業では役に立つ韓国語Ⅰに引き続き、文法の基礎をしっかりと身につけながら会話の演習を行い、一番近い国である韓国の文化や言葉を理解することを目指していく。										
キーワード	挨拶 自己紹介 作文			学修教育目標	役に立つ韓国語応用終了後には、ハングル検定4級に合格することを目標としている。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
特になし。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：かんたん！韓国語 著者名：金殷模、権来順、宋貞喜、文慶 Chol 出版社：朝日出版社					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。										
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。										
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。			異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。						◎	
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。										
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			新しい言葉を学習する、ということで自ら積極的に取り組むことが出来る。						◎
		② 働きかけ力									
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることが出来る。						◎
		② 計画力			韓国語の仕組み、文法の形成、会話、作文など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることが出来る。						○
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力									
		② 傾聴力									
		③ 柔軟性			新たなる知識の習得し会話ができる姿勢を学ぶことが出来る。						◎
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	30		20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価			10						10
	応用力に関する評価			10						10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価					20				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
読み書きに支障のないレベルまでに達し簡単な会話のできる韓国語能力検定試験 4 級水準まで進める。					読み書きがしっかりできて簡単な会話ができるレベルまで進む。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	朝ご飯は食べません	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 2 回 ／	どこに住んでいますか	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 3 回 ／	今日忙しいですか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 4 回 ／	先生でしたか	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 5 回 ／	何をしましたか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 6 回 ／	ごはん食べましたか	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 7 回 ／	何をしたいですか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 8 回 ／	10 課から 15 課までのまとめ	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 9 回 ／	安くて美味しいです	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 10 回 ／	映画見に行きましょうか	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 11 回 ／	何をなさいますか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 12 回 ／	コーヒーを飲みます	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 13 回 ／	何をする予定ですか	面接授業	予習：40 分、復習：40 分	80
第 14 回 ／	映像を通じての会話練習	オンデマンドによる遠隔授業	予習：40 分、復習：40 分	80
	まとめ			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F004S	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ中国語（入門） Chinese Language (Basic Class)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることができるようになる。							
	キーワード 発音 文法 会話	学修教育目標 「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話をできるようになる。						
授業科目の概要及び学修上の助言								
二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 ①一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること ②問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
なし								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：学ぶ中国語　楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		中国語の基礎力を養成する。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性		予習、演習などに主体的に取り組むことができる。 ○					
	② 働きかけ力							
	③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力		分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。 ○					
	② 計画力							
	③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力		口頭や文章でパフォーマンスすることができる。 ◎					
	② 傾聴力		丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。 ○					
	③ 柔軟性							
	④ 状況把握力							
	⑤ 規律性							
	⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観	① 倫理性							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50	20		10			20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	10	5		2			4	21	
	技能に関する評価	15	5		2			4	26	
	応用力に関する評価	15	5		4			5	29	
	チームワークに関する評価	5	2					2	9	
	関心・意欲に関する評価	5	3		2			5	15	
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が８０％以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が６０％～８０％である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 回 中国の概況、挨拶言葉 発音①四声 ②単母音 ③子音 ④複合母音	面接授業 口頭で発音の説明と練習をする	発音と挨拶用語を復習する	中国について の紹介 20 発音練習 50 挨拶用語 20
第 2 回 ／	第一課 本文の読み方と意味説明 判断の表し方（名詞文の基礎） 自己紹介の学習	面接授業 1）説明しながら、全員で新しい単語を読む 2）単語シートで書く練習をする 3）本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4）本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5）文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 3 回 ／	第一課 名詞文の表現と練習	面接授業 6）本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7）文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8）教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 4 回 ／	第二課 本文の読み方と意味説明 存在文と所有文の表現	面接授業 1）説明しながら、全員で新しい単語を読む 2）単語シートで書く練習をする 3）本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4）本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5）文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 5 回 ／	第二課 疑問詞疑問文の表現と練習	面接授業 6）本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7）文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8）教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 6 回 ／	筆記テスト①（第一課～第二課） 口頭試験（自己紹介）①	面接授業 第 1 課と第 2 課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 7 回 ／	第三課 本文の読み方と意味説明 動詞文の表現 曜日の言い方	面接授業 1）説明しながら、全員で新しい単語を読む 2）単語シートで書く練習をする 3）本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4）本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5）文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 8 回 ／	第三課 前置詞「在」 連動文の表現と練習	面接授業 6）本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7）文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8）教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 9 回 ／	第四課 本文の読み方と意味説明 形容詞文の表現 反復疑問文	面接授業 1）説明しながら、全員で新しい単語を読む 2）単語シートで書く練習をする 3）本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4）本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5）文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 10 回 ／	第四課 本文の読み方と意味説明 主述述語文 数量詞の表現と練習	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 11 回 ／	筆記テスト②（第三課～第四課）（30 分間） 第五課 本文の読み方と意味説明 動詞文の肯定の表現	面接授業 第3課と第4課を復習して、テストを実施する 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する	単語と本文を予習復習する	テスト 30 読む書く 30 説明解釈 30
第 12 回 ／	第五課 並列の表現 存在場所を表す表現 動詞文の否定の表現 活動場所を表す表現 追加の意味を表す表現	面接授業 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 6) 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 13 回 ／	第六課 本文の読み方と意味説明 所有を表す表現 存在を表す表現	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 14 回 ／	第六課 予定、計画を表す表現 因果関係を表す表現 練習問題をする	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF22S004A	総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する中国語（応用） Chinese Language（Advanced Class）		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立ててことを目指す。							
	キーワード 発音 文法 会話	学修教育目標 「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。						
授業科目の概要及び学修上の助言								
二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1）一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること 2）問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
なし								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：学ぶ中国語　　楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		中国語の基礎力を養成する。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		予習、演習などに主体的に取り組むことができる。 ○				
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。 ○				
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		口頭や文章でパフォーマンスすることができる。 ◎				
		② 傾聴力		丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。 ○				
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	20		10			20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が８０％以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が６０％～８０％である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 7 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 前置詞を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 2 回 ／	第 7 課 ④ 連動文の表現を習う ⑤ 練習問題をする	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 3 回 ／	第 8 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 二重目的語表現を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 4 回 ／	第 8 課 ④ 前置詞「給」を習う ⑤ 助動詞「要」と疑問詞を習う ⑥ 第 8 課の練習問題をする	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 5 回 ／	筆記試験① 内容範囲：第 7 課と第 8 課 口頭試験①	面接授業 第 7 課と第 8 課と口頭試験内容を練習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 6 回 ／	第 9 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 状態補語の表現を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 7 回 ／	第 9 課 ④ 比較文「比」と「没有」を習う ⑤ 助動詞「会」を習う ⑥ 練習問題をする	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 8 回 ／	第 1 0 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 進行形の表現を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 9 回 ／	第 1 0 課 ④ 結果補語を習う ⑤ 助動詞「应该」を習う ⑥ 練習問題をする	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 10 回 ／	筆記試験② 内容範囲：第 9 課と第 1 0 課 第 1 1 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する	面接授業 第 9 課と第 1 0 課を復習して、テストを実施する 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する	単語と本文を予習復習する	テスト 30 読む書く 30 説明解釈 30
第 11 回 ／	第 1 1 課 ③ 文型などの表現を習う ④ 「是…的」構文を習う ⑤ 練習問題をする	面接授業 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 12 回 ／	第 1 2 課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 変化の「了」を習う	面接授業 1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 13 回 ／	第 1 2 課 ④ 副詞の表現を習う ⑤ 「一点儿」と「有点儿」を習う	面接授業 6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第 14 回 ／	第 1 2 課 ⑥練習問題をする 復習、口頭試験の練習まとめ	面接授業 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） 9) 第 1 1 課と第 1 2 課と口頭試験内容を復習する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21S007B	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことばⅠ（ベーシック） Japanese Language Ⅰ (Basic)		2単位	選択必修	演 習	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
	正しい日本語、理解能力、表現能力		学修教育目標	日本語能力試験 N3, N2 の合格も目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書名：日本語能力試験 公式問題集 N3 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		保健、スポーツ競技の専門用語を習得					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		競技ルールの認識と遵守					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		医療、保健の十分な理解				◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力		安全・安心への配慮				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		チームワークの必要性				○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		ルール違反の防止				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	15	10	10	5		5	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション	対面授業 この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第 2 回 ／	第 1 回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	60
第 3 回 ／	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	対面授業 常用漢字（表）の習得 音・訓 50 音表 母音・子音 演習	同上	60
第 4 回 ／	日本語能力試験 N4 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 5 回 ／	文法、文型	対面授業 演習	同上	60
第 6 回 ／	日本語能力試験 N4 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 7 回 ／	文法 品詞	対面授業 演習	同上	60
第 8 回 ／	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	60
第 9 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 10 回 ／	敬語	対面授業 尊敬語、謙讓語、丁寧語 演習	同上	60
第 11 回 ／	論文（作文）作成指導	対面授業 文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第 12 回 ／	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	60
第 13 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 14 回 ／	聴解力の指導	対面授業 聴解力、読解力の向上のためも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21S007S	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことばⅠ（スタンダード） Japanese Language Ⅰ (Standard)		2 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
	正しい日本語、理解能力、表現能力		学修教育目標	日本語能力試験 N2 の合格も目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書名：日本語能力試験 公式問題集 N2 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		保健、スポーツ競技の専門用語を習得					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		競技ルール の 認識と遵守					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		医療、保健の十分な理解				◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力		安全・安心への配慮				○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		チームワークの必要性				○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		ルール違反の防止				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	15	10	10	5		5	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション	対面授業 この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第 2 回 ／	第 1 回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	60
第 3 回 ／	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	対面授業 常用漢字（表）の習得 音・訓 50 音表 母音・子音 演習	同上	60
第 4 回 ／	日本語能力試験 N4 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 5 回 ／	文法、文型	対面授業 演習	同上	60
第 6 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 7 回 ／	文法 品詞	対面授業 演習	同上	60
第 8 回 ／	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	60
第 9 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 10 回 ／	敬語	対面授業 尊敬語、謙讓語、丁寧語 演習	同上	60
第 11 回 ／	論文（作文）作成指導	対面授業 文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第 12 回 ／	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	60
第 13 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 14 回 ／	聴解力の指導	対面授業 聴解力、読解力の向上のためも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21S007A	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことばⅠ（アドバンス） Japanese Language Ⅰ (Advanced)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N2, N1 の合格も目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書名：日本語能力試験 公式問題集 N1 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		保健、スポーツ競技の専門用語を習得					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		競技ルール の認識と遵守					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		医療、保健の十分な理解				◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力		安全・安心への配慮				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		チームワークの必要性				○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		ルール違反の防止				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	15	10	10	5		5	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション	対面授業 この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第 2 回 ／	第 1 回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	60
第 3 回 ／	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	対面授業 常用漢字（表）の習得 音・訓 50 音表 母音・子音 演習	同上	60
第 4 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 5 回 ／	文法、文型	対面授業 演習	同上	60
第 6 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 7 回 ／	文法 品詞	対面授業 演習	同上	60
第 8 回 ／	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	60
第 9 回 ／	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 10 回 ／	敬語	対面授業 尊敬語、謙讓語、丁寧語 演習	同上	60
第 11 回 ／	論文（作文）作成指導	対面授業 文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第 12 回 ／	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	60
第 13 回 ／	日本語能力試験 N1 対応問題研究	対面授業 演習	同上	60
第 14 回 ／	聴解力の指導	対面授業 聴解力、読解力の向上のためも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F008B	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことばⅡ（ベーシック） Japanese Language Ⅱ (Basic)		2 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
	正しい日本語、理解能力、表現能力		学修教育目標	日本語能力試験 N3、N2 の合格も目標とする。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
学科関連専門用語を習得させ、2 年次以降の専門教育科目につなぐ。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N3 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		保健、スポーツ競技の専門用語を習得					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		競技ルール の認識と遵守					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		医療、保健の十分な理解				○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力		安全・安心への配慮				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		チームワークの必要性				○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		ルール違反の防止				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	15	10	10	5		5	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 決意文作成	対面授業 日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第 2 回 ／	第 1 回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	70
第 3 回 ／	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 4 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 5 回 ／	文法、文型 慣用句	対面授業 演習	同上	70
第 6 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 7 回 ／	文法 品詞 同意語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 8 回 ／	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	70
第 9 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 10 回 ／	敬語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 11 回 ／	論文（作文）作成指導	対面授業 演習	同上	70
第 12 回 ／	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	70
第 13 回 ／	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 14 回 ／	聴解力の指導	対面授業 演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F008S		総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー		にほんのことばⅡ（スタンダード） Japanese Language Ⅱ (Standard)		2 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。									
	正しい日本語、理解能力、表現能力			学修教育目標	日本語能力試験 N2、N1 の合格も目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
学科関連専門用語を習得させ、2 年次以降の専門教育科目につなぐ。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N2 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。			保健、スポーツ競技の専門用語を習得						◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。			競技ルールの認識と遵守						◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			医療、保健の十分な理解					◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力			安全・安心への配慮					◎
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性			チームワークの必要性					○
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			ルール違反の防止					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	15	10	10	5		5	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 決意作文	対面授業 日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第 2 回 ／	第 1 回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	70
第 3 回 ／	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 4 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 5 回 ／	文法、文型 慣用句	対面授業 演習	同上	70
第 6 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 7 回 ／	文法 品詞 同意語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 8 回 ／	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	70
第 9 回 ／	日本語能力試験 N3 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 10 回 ／	敬語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 11 回 ／	論文（作文）作成指導	対面授業 演習	同上	70
第 12 回 ／	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	70
第 13 回 ／	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 14 回 ／	聴解力の指導	対面授業 演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLF21F008A	総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことばⅡ（アドバンス） Japanese Language Ⅱ (Advanced)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。							
キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N2、N1 の合格も目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
学科関連専門用語を習得させ、2 年次以降の専門教育科目につなぐ。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N1 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		保健、スポーツ競技の専門用語を習得					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		競技ルールの認識と遵守					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		医療、保健の十分な理解				◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力		安全・安心への配慮				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		安全・安心への配慮				○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		ルール違反の防止				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	15	10	10	5		5	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 決意作文	対面授業 日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	
第 2 回 ／	第 1 回の論述文の修正添削等	対面授業 演習	同上	70
第 3 回 ／	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 4 回 ／	日本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 5 回 ／	文法、文型 慣用句	対面授業 演習	同上	70
第 6 回 ／	本語能力試験 N2 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 7 回 ／	文法 品詞 同意語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 8 回 ／	文法 接続詞、助詞等	対面授業 演習	同上	70
第 9 回 ／	日本語能力試験 N1 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 10 回 ／	敬語 小テスト	対面授業 演習	同上	70
第 11 回 ／	論文（作文）作成指導	対面授業 演習	同上	70
第 12 回 ／	論文（長文）読解力	対面授業 演習	同上	70
第 13 回 ／	日本語能力試験 N1 対応問題研究	対面授業 演習	同上	70
第 14 回 ／	聴解力の指導	対面授業 演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21S014B		総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		ソフトウェアリテラシー I（ベーシック） Software Literacy I (Basic)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、Word の基本的な機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。									
	キーワード Word 文書の作成		学修教育目標	学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、日常よく使用する文書やレポート類を自分の力で作成できるようになることが目標である。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の 1 つになっている。 「プレゼンテーション実務士」、「観光ビジネス実務士」の取得要件選択科目の 1 つになっている。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。									
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。									
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			Word の基本的な操作技能を身につける。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			与えられた課題を自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力			授業中に自らすすんで質問することができる。					◎
		③ 実行力			課題を完成させることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力								
		② 計画力			課題ができるように計画的に準備ができる。					○
		③ 創造力			答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			私語をしないで授業を受けることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45	25			30			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30	5			10			45
	技能に関する評価		10	20			10			40
	応用力に関する評価		5							5
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10			10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、文字の入力に抵抗がない。					テキストを参考にしながらコンピュータの基本操作と Word の基本操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習（面接授業）※ ※すべての回において面接授業を基本としますが、受講人数や感染状況で課題提出となる場合があります。	社会人基礎力事前自己評価シートの記入	30
	課題			
第 2 回 ／	コンピュータの基本操作 タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 3 回 ／	タイプクイック練習 Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 4 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章） タイプクイック	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 5 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト、課題			
第 6 回 ／	タイプクイック練習 文書の編集（第 3 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 7 回 ／	タイプクイック練習 文書の印刷（第 4 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 8 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 9 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 10 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 11 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト			
第 12 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 13 回 ／	タイプクイック検定 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	講義、演習※	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト、課題			
第 14 回 ／	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習※	社会人基礎力事後自己評価シートの記入	60
	課題		復習：学期末テストに向けて	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21S014S	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅠ（スタンダード） Software LiteracyⅠ(Standard)		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word に用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。							
キーワード	Word 文書の作成 Word 文書処理技能認定試験 Microsoft Office Specialist Word	学修教育目標	学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Word」にも挑戦することを目標とする。また、Type Quick 検定はSILVER LEVEL（正確率 95％以上かつスピード 30WPM を目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の 1 つになっている。 「プレゼンテーション実務士」、「観光ビジネス実務士」の取得要件選択科目の 1 つになっている。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		Word の基本的な操作技能を身につけ活用できる。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎					
		② 働きかけ力	授業中に自らすずんで質問することができる。 ◎					
		③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。 ○					
		③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○					
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45	25			30			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30	5			10			45
	技能に関する評価		10	20			10			40
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10			10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net）	面接授業	社会人基礎力事前自己評価シートの記入	30
	課題			
第 2 回 ／	タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章）	面接授業	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 3 回 ／	タイプクイック Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 4 回 ／	タイプクイック 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 5 回 ／	タイプクイック 文書の編集（第 3 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 6 回 ／	タイプクイック 文書の印刷（第 4 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 7 回 ／	タイプクイック 文書の作成（第 5 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 8 回 ／	タイプクイック 文書の作成（第 5 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 9 回 ／	タイプクイック 表を使った文書の作成（第 6 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 10 回 ／	タイプクイック 表を使った文書の作成（第 6 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト			
第 11 回 ／	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 12 回 ／	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第 13 回 ／	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	面接授業	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	小テスト、課題			
第 14 回 ／	タイプクイック 総合学習問題の解説と練習	面接授業	社会人基礎力事後自己評価シートの記入	60
	課題		復習：学期末テストに向けて	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21S014A	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅠ（アドバンス） Software LiteracyⅠ(Advanced)		1単位	選択必修	演 習	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word に用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。また、資格取得にも積極的に挑戦する。							
	キーワード Word 文書の作成 Word 文書処理技能認定試験 Microsoft Office Specialist Word	学修教育目標	学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Word」の少なくとも一方を取得することを目標とする。また、Type Quick 検定はGOLD LEVEL（正確率 97%以上かつスピード 50WPM を目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
教科書および配布教材を用いる。Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を修学する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっている。 「プレゼンテーション実務士」、「観光ビジネス実務士」の取得要件選択科目の1つになっている。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				『WORD文書処理技能試験 3級問題集』 サーティファイ サーティファイ				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		Word の基本的な操作技能を身につけ自在に文書作成ができる。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎				
		② 働きかけ力		授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎				
		③ 実行力		課題を完成させることができる。 ◎				
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力		課題ができるように計画的に準備ができる。 ○				
		③ 創造力		答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○				
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。 ◎				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50				50			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10			20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20			20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Word の基本操作だけでなく、実用的に Word を使いこなすことができ、人に教えることもできる。					Word の基本操作ができ、日常的な文書作成に Word を使うことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作の確認	面接授業 講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 （以下、毎回、時間とも同様）	60
第 2 回 ／	タイプクイック導入 Word の基本（第 1 章）	面接授業 講義、演習		60
第 3 回 ／	タイプクイック練習 Word の基本（第 1 章） 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章）	面接授業 講義、演習		60
第 4 回 ／	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第 2 章） タイプクイック	面接授業 講義、演習		60
第 5 回 ／	タイプクイック練習 文書の編集（第 3 章）	面接授業 講義、演習		60
第 6 回 ／	タイプクイック練習 文書の印刷（第 4 章）	面接授業 講義、演習		60
第 7 回 ／	タイプクイック練習 文書の作成（第 5 章）	面接授業 講義、演習		60
第 8 回 ／	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第 6 章）	面接授業 講義、演習		60
第 9 回 ／	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第 7 章）	面接授業 講義、演習		60
第 10 回 ／	Word 資格模擬問題	面接授業 講義、演習		60
第 11 回 ／	Word 資格模擬問題	面接授業 講義、演習		60
第 12 回 ／	Word 資格模擬問題	面接授業 講義、演習		60
第 13 回 ／	Word 資格模擬問題	面接授業 講義、演習		60
第 14 回 ／	総合学習問題の解説と練習 最終課題	面接授業 講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21F015B	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（ベーシック） Software LiteracyⅡ（Basic）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力の基礎を身につけることを目的とする。Excel の基本操作を理解し、データの編集、表の作成、グラフの作成、図形の作成、関数、並べ替えなどの基本操作を修得する。							
キーワード	Excel 表の作成 グラフの作成	学修教育目標	実際の作成例をもとに、図表の作成、グラフや図形の作成、簡単な数式の計算ができるようになる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
Excel の基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっています。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		Excel の基礎的な操作技能を身につける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		与えられた課題を自発的に取り組むことができる。				◎
		② 働きかけ力		授業中に自らすすんで質問することができる。				◎
		③ 実行力		課題を完成させることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力		課題ができるように計画的に準備ができる。				○
		③ 創造力		答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		私語をしないで授業を受けることができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		40		10					50
	技能に関する評価		10		10					20
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				30					30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Excel の基本操作を理解し、Excel の基本操作ができる。					テキストを参考にしながら、Excel の操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のかたなどを修得する。	面接授業	社会人基礎力事前自己評価シートの記入	60
	コメントシート			
第 2 回 ／	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2 章 データの編集			
第 3 回 ／	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2 章 練習問題 3			
第 4 回 ／	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 3 章 表の編集			
第 5 回 ／	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 4 章 ブックの印刷			
第 6 回 ／	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章の 1 グラフと図形の作成/グラフの作成			
第 7 回 ／	グラフと図形の作成 (2) グラフの作成、図形の作成について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章の 2 グラフと図形の作成/図形の作成			
第 8 回 ／	グラフと図形の作成 (3) グラフの作成、図形の作成について修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章 練習問題 1、練習問題 2			
第 9 回 ／	関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章の 1 関数/統計計算			
第 10 回 ／	関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章の 2, 3, 4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第 11 回 ／	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章 練習問題 1			
第 12 回 ／	関数(4) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	オンデマンドによる遠隔授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章 練習問題 2			
第 13 回 ／	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 8 章 データベース機能			
第 14 回 ／	総合学習問題の解説 これまでに修得した内容の総復習を行う。	面接授業	社会人基礎力事後自己評価シートの記入	60
	総合学習問題		授業内容の復習と課題	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21F015S	総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（スタンダード） Software LiteracyⅡ（Standard）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excel の基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。Excel は他の授業や卒業後社会に出てからも使う機会が多く、一通り使えるようになっておく必要がある。							
キーワード	Excel 表の作成 グラフの作成 Excel 表計算技能認定試験 MOS Excel	学修教育目標	学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel 表計算処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Excel」にも挑戦することを目標とする。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
Excel の基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。 また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。パソコン操作が苦手な学生は、自主学習により時間をかけてくることが望まれる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
表計算ソフトは他科目において演習・レポート作成に必要となることがある。日常的にパソコンを使用すること。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		Excel の基本的な操作技能を身につける。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。 ◎					
		② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。 ◎					
		③ 実行力	課題を完成させることができる。 ◎					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。 ◎					
		③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。 ○					
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。 ◎					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	35		15						50
	技能に関する評価	10		15						25
	応用力に関する評価	5								5
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			20						20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のかたなどを修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	コメントシート			
第 2 回 ／	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2 章 データの編集			
第 3 回 ／	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 2 章 練習問題 3			
第 4 回 ／	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 3 章 表の編集			
第 5 回 ／	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 4 章 ブックの印刷			
第 6 回 ／	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章の 1 グラフと図形の作成/グラフの作成			
第 7 回 ／	グラフと図形の作成 (2) グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章の 2 グラフと図形の作成/図形の作成			
第 8 回 ／	第 1 回から第 7 回までの復習	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 5 章 練習問題 3			
第 9 回 ／	ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 6 章 ブックの利用と管理			
第 10 回 ／	関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章の 1 関数/統計計算			
第 11 回 ／	関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章の 2, 3, 4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第 12 回 ／	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章 練習問題 1、練習問題 2			
第 13 回 ／	第 9 回から第 12 回までの復習	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 7 章 練習問題 3			
第 14 回 ／	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	講義、演習 面接授業	授業内容の復習と課題	60
	課題 8 章 データベース機能			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI21F015A		総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（アドバンス） Software LiteracyⅡ（Advanced）		1 単位	選択必修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的									
	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excel の基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。サーティファイまたはマイクロソフトが主催する Excel の認定試験の対応をする。								
キーワード	Excel 表の作成 グラフの作成 Excel 表計算技能認定試験 MOS Excel		学修教育目標	学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につける。全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel 表計算処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Excel」にも合格することを目標とする。					
	授業科目の概要及び学修上の助言								
Excel の基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修し、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。技能確認のため、課題作成を行なう。単位取得には、課題を全て提出する必要がある。 また、認定試験に合格できるように学習時間を確保すること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の 1 つになっています。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット				書 名：Excel 表計算処理技能認定試験 3 級問題集（2019 対応） 著作者：サーティファイ 出版社：サーティファイ					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。								
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。								
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。								
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。								
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		Excel の操作技能を身につける。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		与えられた課題を自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力		授業中に自らすすんで質問することができる。					◎
		③ 実行力		課題を完成させることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		表計算ソフトの理解に関して、目的や課題を明らかにすることができる。					◎
		② 計画力		自身の技能に合わせて課題を仕上げるスケジューリングや条件などをまず整理して計画する。					◎
		③ 創造力		答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力							
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50				50			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10			10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20			20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、人に教えることができる。Excel に関する認定試験に合格できる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	第 1 章 授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のかたなどを修得する。	面接授業 講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 （以下、毎回、時間とも同様）	60
第 2 回 ／	第 2 章 データの編集 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	面接授業 講義、演習		60
第 3 回 ／	第 3 章 表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	面接授業 講義、演習		60
第 4 回 ／	第 4 章 ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	面接授業 講義、演習		60
第 5 回 ／	第 5 章 グラフと図形の作成 グラフの作成、図形の作成について修得する。	面接授業 講義、演習		60
第 6 回 ／	第 6 章 ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	面接授業 講義、演習		60
第 7 回 ／	第 7 章 関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	面接授業 講義、演習		60
第 8 回 ／	第 7 章 関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	面接授業 講義、演習		60
第 9 回 ／	第 8 章 データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	面接授業 講義、演習		60
第 10 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（1） 練習と解説	面接授業 講義、演習		60
第 11 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（2） 練習と解説	面接授業 講義、演習		60
第 12 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（3） 練習と解説	面接授業 講義、演習		60
第 13 回 ／	表計算処理技能認定試験対応（4） 練習と解説	面接授業 講義、演習		60
	練習問題 5、練習問題 6			
第 14 回 ／	総合学習問題の解説と練習 最終課題	面接授業 講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLI12S016S		総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー		現代の統計学 Elementary Statistics		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	現代社会では、統計の知識は、すべての人にとって必須の知識となっている。また社会科学等分野におけるデータ処理法を理解する上で非常に重要な基礎知識である。 本授業では、統計的思考方の重要性を学び、統計学が適用される現実の諸問題に関して、統計的に処理する方法論を学修する。具体的には、まず統計学の概念や論理的側面を全体的に把握し、さらに統計的処理の方法を表計算ソフトを用いて学ぶことを通して統計学の必要性を修得する。									
	キーワード	記述統計 母集団と標本 統計的検定 相関係数	学修教育目標	多方面で利用される統計的な処理の「論理的背景」を習得する。特に社会科学系等諸分野等における具体的な「統計手法」を修得する。また、今後履修する様々な応用専門科目の理解のための「統計学的素養」を身につける。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
本授業は、統計の基礎について講義する。同時に模擬データを難しい数式を使わずに、表計算ソフトで統計的に処理しながら授業を進める。 授業内に課題を課すので自らの力で取組むこと。わからないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、各自で問題を解決して欲しい。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「ソフトウェアリテラシー基礎」「ソフトウェアリテラシー応用」などパソコン関連の科目の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると理解がより深まる。										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
書 名：マンガでわかる統計学 著者名：高橋 信 出版社：オーム社					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。									
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。			授業を理解するために資料を集めることができる。						◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	質問に積極的に答えることができる。						○	
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。						◎	
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性	他人の意見、アドバイスを受け入れ、自己向上にいかせる。						○	
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。						○	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				30		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20				10		10	40
	技能に関する評価		20				10			30
	応用力に関する評価		10						5	15
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10		5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
適切な統計解析手法を選択し、それを正しく使うことができる。 統計的検定を正確に用いることができる。					なぜ統計学が大事であるかを理解している。 統計的検定を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス　ー本講義の進め方や受講上の注意事項ー ①統計学のイメージは？　②統計学とは	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：テキストP. 1～P. 12 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 2 回 ／	データの特徴を捉える（1） 尺度について　質的データと量的データ	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：テキスト第 1 章, 第 3 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 3 回 ／	データの特徴を捉える（2） 度数分布とヒストグラム	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：テキスト P. 32-P. 39 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 4 回 ／	データの特徴を捉える（3） 模擬データの実習	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：P. 192-194 を予習しておく。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 5 回 ／	代表値について 最大値・最小値・平均値・中央値・最頻値	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：　テキスト P. 40-P. 47 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 6 回 ／	平均値・分散・標準偏差について	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：　テキスト P. 48-P. 53 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 7 回 ／	模擬データを用いた分析	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：　テキスト P. 195-196 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 8 回 ／	確率密度関数について	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：　テキスト第 4 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 9 回 ／	相関係数について（1） 散布図を描く	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：テキスト P. 112-P. 120 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 10 回 ／	相関係数について（2） 相関係数の算出	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：テキスト P. 207-P. 208 を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 11 回 ／	カイ二乗検定について 観測度数と期待度数	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：第 7 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 12 回 ／	カイ二乗検定について 模擬データを用いた実習	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：第 7 章を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 13 回 ／	模擬データを用いた練習（1）	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：これまで学習したことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			
第 14 回 ／	模擬データを用いた練習（2）	【面接授業または課題研究】 講義・アクティブラーニング	予習：　これまで学習したことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	60
	コメントシート、演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLH11F034S		総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー	健康運動論 Health and Physical Exercises Theory		2 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	人体の機能は適度に使用することにより、その機能維持は向上する。そして、健康を阻害する因子を学ぶことにより、体力の定義と体力の分類について理解し、運動の危険性と必要性や運動の種類や効果についても理解することを目的とする。								
	キーワード	健康 運動処方 生活習慣病の予防と改善 食事・運動療法	学修教育目標	運動処方の原理について、特に性差・個人の能力差・障害の有無・加齢など目的にあった適切な運動処方を工夫することができる。 食事・運動療法が有効な生活習慣病の種類とその病態を理解することができる。 生活習慣病の予防や改善のための運動の種類や方法を理解することができる。 肥満発症の遺伝要因や環境要因とともに身体のエネルギー代謝機構を学ぶことができる。 健康管理・生活管理・体力管理の重要性について理解することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
2名の教員がオムニバス形式で実施する。 健康・体力・トレーニングに関する書籍を読んでおくこと。 また日常生活においても健康に留意し、運動をしておくこと。 生活習慣病に関する一般的知識を書籍やネットを通して予習しておく。 生活スタイルを見直し、疲労感や睡眠不足に留意した健康生活を維持して受講すること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
特になし。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：健康・スポーツ科学講義 著者名：出村慎一 監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則・吉村喜信 編 出版社：杏林書院				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		健康を実現するアプローチ方法について考えることができる。						○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。								
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		行動変容を促すアプローチ方法について考えることができる。						○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		ルールや約束を守り仲間と協力して授業に参加することができる。						○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		疾患の背景を理解し対策を考える事ができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、自ら進んで取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力							
		③ 実行力		自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。					○
		② 計画力							
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力							
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性		ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		他者の事を考えながら授業を受けることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	40	5					85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		3					13
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
①健康とは何かを十分に理解している。 ②運動処方について十分に理解している。 ③行動変容を阻害する要因を十分に理解している。					①健康とは何かを概ね理解している。 ②運動処方について概ね理解している。 ③行動変容を阻害する要因を概ね理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	身体運動の基礎 ①健康体力づくりの必要性 ②運動とエネルギー ③人体の骨格、筋の構造と機能、筋運動と神経系、筋力の発揮、循環器系、骨、筋肉、内分泌系に現れる影響	講義 課題研究による授業	今回の復習	30
第 2 回 ／	効果的な運動 ①有酸素・無酸素運動 ②レジスタンス運動、柔軟性運動、バランス運動、ウォーミングアップ、クーリングダウン	講義 課題研究による授業	前回・今回の復習	30
第 3 回 ／	運動行動変容の実際 ・社会的認知行動（トランスセオレティカル・モデル、行動変容プログラム、逆戻りプロセスの認知行動モデル）	講義 課題研究による授業	前回・今回の復習	30
第 4 回 ／	運動施策 ・運動基準と運動指針	講義 課題研究による授業	前回・今回の復習	30
第 5 回 ／	健康と疾患（1） ・肥満症と食事・運動療法の理解	講義 面接授業	今回の復習 レポート課題（提出期限は第 15 回）	30
	小テスト			
第 6 回 ／	健康と疾患（2） ・虚血性疾患の発症機序とその予防	講義 面接授業	前回の講義内容の確認 今回の復習	30
	小テスト			
第 7 回 ／	健康と疾患（3） ・糖尿病の病態とその予防	講義 面接授業	前回の講義内容の確認 今回の復習	30
	小テスト			
第 8 回 ／	健康と疾患（4） ・高血圧症の発症機序とその予防	講義 面接授業	前回の講義内容の確認	30
	小テスト			
第 9 回 ／	健康と疾患（5） ・脂質異常症の病態とその予防	講義 面接授業	前回の講義内容の確認 講義内容全般の復習	30
	小テスト・レポート提出			
第 10 回 ／	運動処方（1） ①トレーニングの原則・理論 ②運動処方の手順	講義 課題研究による授業	前回・今回の復習	30
	中テスト			
第 11 回 ／	運動処方（2） ・メディカルチェック（運動負荷テスト・体力テスト、運動処方の作成・実施、効果判定）	講義 課題研究による授業	中テストの復習 今回の復習	30
第 12 回 ／	運動処方（3） ①運動プログラム作成の為の原理原則 ②身体活動量の評価及び現在の体力の評価 ③身体活動量の目標設定	講義 課題研究による授業	前回・今回の復習	30
第 13 回 ／	運動療法（1） ・運動療法の意義とプログラム作成 ・生活習慣病における運動療法とプログラム作成	講義 課題研究による授業	前回・今回の復習	30
第 14 回 ／	運動療法（2） ・プログラム作成のまとめ	講義 課題研究による授業	前回・今回の復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLH11S035S		総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー		レクリエーション理論 Recreation Theory		2単位	必 修	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	レクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や生涯学習社会において重要な役割を持っている。本講義では、レクリエーションの歴史的背景を学び、その役割についてしっかりと理解することを目的とする。 また、社会変化に伴うレクリエーションの社会的意義、指導者としての役割について理解する。 レクリエーションは、スポーツ・教育・地域・福祉などにおいて幅広く活動をする場があり、レクリエーション指導者としての必要な理論及び、知識を習得し、レクリエーションインストラクターの資格取得を目指す。 対象者に応じたレクリエーション支援の計画案作成し、発表するなどといったと実践能力を身につける。									
	キーワード	レクリエーション 生涯スポーツ アダプテッドスポーツ 健康づくり 地域・社会貢献 福祉 教育		学修教育目標	レクリエーションはスポーツ活動だけにとどまらないということをしっかりと理解し、様々な対象者のニーズにあった企画書を作成し、運営できるようになること。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
レクリエーションの意義・目的を理解する。各種競技スポーツとは違うことを理解し、レクリエーションの必要性を学び、可能性を探る。 対象となる年齢の幅を理解し、対象者にあったレクリエーションの企画書作成や指導計画書を作成する。グループにて発表をするための準備を行う。 授業時に出された課題は必ず取り組み、提出をすること。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「レクリエーション実習」「ニュースポーツ」の理解につながる。 レクリエーションインストラクター資格の必要要件科目である。 授業時には iPad を使用することもあるので、持参すること。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 著者名：（公財）日本レクリエーション協会 出版社：（公財）日本レクリエーション協会				書 名：楽しいをつくるやさしいレクリエーション実践 著者名：（公財）日本レクリエーション協会 出版社：（公財）日本レクリエーション協会						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。			あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。						◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。			あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。						◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。			あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。						◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。			あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。						◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			主体性をもって積極的に取り組む。					○
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力								
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスの原因となる事象が発生した時に適切な対処をすることができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性			共に受講している学生のことを考えて行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常的狀況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50			25			25	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					25				25
	関心・意欲に関する評価								25	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
レクリエーション・インストラクター資格取得の授業の為、全出席とする。 「レクリエーション」について十分に理解している。 与えられた課題を 80%以上達成し、理解している。					レクリエーション・インストラクター資格取得の授業の為、全出席とする。 「レクリエーション」について理解している。企画書を作成できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 講義の概要・進め方など説明	面接・講義	社会人基礎力事前評価シートの作成 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 2 回 ／	第 1 章 レクリエーション概論 Ⅰレクリエーション支援とは Ⅱレクリエーション・インストラクターの 2 つの役割	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 3 回 ／	第 2 章 楽しさと心の元気づくりの理解 第 1 節 楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 Ⅰ楽しさをとおした心の元気づくりの理解 Ⅱライフステージと心の元気づくり	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 4 回 ／	Ⅲ子どもや高齢者の元気づくり Ⅳ障がいのある人の心の元気づくり	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 5 回 ／	第 2 節 心の元気と地域のきずな Ⅰ地域のきずなづくり Ⅱ子どもを育む地域のきずな Ⅲ高齢者を支える地域のきずな Ⅳきずなづくりとレクリエーション	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 6 回 ／	第 3 章 レクリエーション支援の理解 第 1 節 コミュニケーションと信頼づくりの理解 Ⅰレクリエーション支援におけるコミュニケーション Ⅱ対象者と信頼関係	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 7 回 ／	Ⅲ信頼づくりの方法	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 8 回 ／	第 2 節 良好な集団づくりの理論 Ⅰ集団づくりの理解 Ⅱレクリエーション活動の楽しさと集団のまとめり Ⅲ集団内のコミュニケーションの促進	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 9 回 ／	第 3 節 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 Ⅰ自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 Ⅱやる気の変化とやる気の生じる心の仕組み Ⅲ成功体験を支え合う対象者のかかわり	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
第 10 回 ／	第 4 章 レクリエーション支援の方法 第 1 節 信頼関係作りの方法・ホスピタリティー Ⅰあたたかくもてなす意識と配慮 Ⅱ気持ちを一つにするコミュニケーション	面接・講義	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 11 回 ／	第 2 節 良好な集団作りの方法・アイスブレーキング Ⅰアイスブレーキングのプログラム	面接・講義、 演習（グルー プワーク）	予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーション準備	30 60
	コメントシート			
第 12 回 ／	Ⅱアイスブレーキングの効果を高める支援技術	面接・講義、 演習（プレゼンテーション）	予習：プレゼンテーション準備 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーション準備	60 60
	プレゼンテーション、ワークシート			
第 13 回 ／	第 3 節 自主的・主体的に楽しむ心を育むレクリエーション活動の展開法 Ⅰ楽しむ力を高める目標設定の方法 Ⅱレクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジ	面接 演習（プレゼンテーション）	予習：プレゼンテーション準備 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーション準備	60 60
	プレゼンテーション、ワークシート			
第 14 回 ／	Ⅲ対象者の相互作用を促進するコミュニケーション術の活用方法	面接 演習（プレゼンテーション）	予習：プレゼンテーション準備 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーションのまとめ 社会人基礎力事後評価シート作成	60 60
	プレゼンテーション、ワークシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLH11S036S		総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー		レクリエーション実習 Recreation and Sport		1 単位	必 修	実 習	1 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	新しい環境に馴染めないことで、良好な人間関係を構築することが難しいと考えている子どもたちや青年、また、健康な生活を心がけている中高年、全ての世代を対象に、心も身体も健やかに日常生活を送るためのきっかけ作りとしての意味を理解すること。 学校教育現場では、クラス運営や仲間作りのきっかけとして、活用できるように知識や技術を学び、また、地域社会においてはコミュニティの活性化に役立てられることを理解し、技術を身につけることを目的とする。										
	キーワード	レクリエーション ライフスキル 仲間作り 学級作り チーム作り プロジェクトアドベンチャー ハートアクティビティ 健康づくり	学修教育目標	人間関係づくりの手法を体得することができ、ライフスキル獲得につなげることができる。中高年の健康維持・増進に役立つことを理解できる。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
授業前半は、用具（ボールなど）を使わずに各種レクリエーションを展開する。 レクリエーションの「いつでも どこでも 誰とでも 楽しめる」を基に自然と笑顔が溢れる楽しいを体得する。 また、レクリエーション理論で学修した内容を実習を通して理解する。 後半は小グループに分かれて、レクリエーションプログラムを考案し、発表するための準備を行い、発表をする。 授業時に復習・予習の課題が出るので、各自作成して提出をすること。また、授業学修ノートの作成・提出をする。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「レクリエーション理論」「キャンプ実習」「ニュースポーツ実習」「スポーツ心理学Ⅱ」「スポーツとメンタルヘルス」「メンタルトレーニング論」の理解につながる。 レクリエーションインストラクター資格の必要要件科目である。 授業時には、iPad を使用するため持参すること。											
教 科 書				参考書・リザーブドブック							
なし				書 名：楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 著者名：（公財）日本レクリエーション協会 出版社：（公財）日本レクリエーション協会							
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。			教育・チーム・福祉場面にて役立てることができる。							◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。			教育・チーム・福祉場面にて役立てることができる。							◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。			他者を敬い、相手を理解し受容することを身につけることができる。							○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。			他者を敬い、相手を理解し受容することを身につけることができる。							○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			教育・チーム・福祉場面にて役立てることができる。							○
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力			リーダーシップを発揮して、目標達成の働きかけを行うことができる。						○
		③ 実行力			自分に必要な目的を理解し、行動することができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			客観的に自分を観察し、課題や問題を解決することができる。						○
		② 計画力			計画を立てて行動することができる。						○
		③ 創造力			課題遂行に向けて、新しいことや解決策を考えることができる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の意見をわかりやすく伝えることができる。						◎
		② 傾聴力			相手が話しやすい環境を作り、理解することができる。他人のアドバイスを聞くことができる。						○
		③ 柔軟性			相手の意見や立場を尊重し、理解することができる。他人の意見を受け入れ、自己向上にいかせる。						○
		④ 状況把握力			自分の置かれている状況を把握し、どのような役割が求められているかを理解することができる。						○
		⑤ 規律性			節度ある行動を取ることができる。ルールを遵守することができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスの原因となる事象が発生した時に適切な対処をすることができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性			自分の能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20	20	10				100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		20	10				40
	技能に関する評価		20	20						40
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価		5							5
	関心・意欲に関する評価		5							5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
積極的に自己の役割を果たし、課題に取り組むことができる。 レクリエーション活動を通して得ることができる事項を十分に理解している。 提出物を期日厳守することができる。					「レクリエーション」について理解し、他者と協力して積極的に役割を 遂行することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ①レクリエーション支援の方法	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	レクリエーションとは何か。インストラクター資格取得説明含む			
第 2 回 ／	②レクリエーション支援の方法 アイスブレーキングゲーム(1)	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 3 回 ／	③レクリエーション支援の方法 アイスブレーキングゲーム(2)	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 4 回 ／	④レクリエーション支援の方法 アイスブレーキングゲーム(3)	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 5 回 ／	⑤レクリエーション支援の方法 アイスブレーキングゲーム(4)	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 6 回 ／	⑥レクリエーション支援の方法 仲間作りを目的としたゲーム（1）	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 7 回 ／	⑦レクリエーション支援の方法 仲間作りを目的としたゲーム（2）	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 8 回 ／	⑧レクリエーション支援の方法 仲間づくりを目的としたゲーム(3)	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 9 回 ／	⑨レクリエーション支援の実施 対象者に合わせたレクリエーションワーク（1）	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 10 回 ／	⑩レクリエーション支援の実施 各グループの発表・評価)	面接授業 実技形式	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 11 回 ／	⑪レクリエーション支援の実施 各グループの発表・評価	面接授業 グループ活動	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 12 回 ／	⑫レクリエーション支援の実施 各グループの発表・評価	面接授業 グループ活動	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 13 回 ／	⑬レクリエーション支援の実施 各グループの発表・評価	面接授業 グループ発表	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			
第 14 回 ／	⑭レクリエーション支援の実施 各グループの発表・評価	面接授業 グループ発表	授業時に提示された課題に取り組む。	30
	授業学修ノート・授業課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLH31F037S	総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー	ニューススポーツ実習 Practice New Sports		1 単位	選 択	実 技	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	スポーツの固定概念にとらわれることなく、身体を動かすことの楽しさを追求することがニューススポーツである。 スポーツ活動実践の有用性・ニューススポーツの意義を発見する。 目標として、既存スポーツのルールを越えて、楽しさを実感できるオリジナルなスポーツ、すなわちニューススポーツを考えることができることを目指す。 授業では、学生が相互にニューススポーツを模索し、評価をする。							
キーワード	ニューススポーツのチカラ 生活の自立・共生・生きがいづくり	学修教育目標	各種目の特性を理解し、生涯スポーツについて、知見を広めることができる。 また、他者関係の構築、理解、受容を体得することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
ニューススポーツの意義を考え、実習を通じて概要と特性に応じた支援方法や技術を、自ら学び自らの意思で積極的に取り組むことができる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
専門的な知識・技術を身につけ、総合的に各プログラムの例を学修、展開方法・組み立ての理解と把握。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書 名：ニューススポーツ ベスト7 著者名：日本レクリエーション協会 出版社：日本レクリエーション協会				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		専門的な支援活動知識、方法を身につける。					◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		専門的な技能活動の展開方法、組み立てを身につける。					◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		支援・指導に必要な専門的な知識を身につける。					○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		健康づくりに必要な支援、効果的な活動。					○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		生活意欲、生活の質の向上。身体機能の維持・向上。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		健康の意義を考え、様々な素材、活動を知り、取り組むことができる。				◎
		② 働きかけ力		概要と特性を身につけ、自信を持ち、協働して取り組むことができる。				○
		③ 実行力		ニューススポーツの体験を通じ、「楽しい」と喜びを感じ、指導することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		実習を通じ、目的や問題を明らかにし、的確に計画を立てることができる。				○
		② 計画力		支援プロセスをとらえ、自発的に問題を解決、的確に計画を立てることができる。				◎
		③ 創造力		多様な知識・技能を用いて、具体的に筋道を立て、効果的に伝えることができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		実技を具体的に、筋道を立てて、わかりやすく的確に伝えることができる。				◎
		② 傾聴力		相手の考えを考慮して、適正に聴くことができる。				○
		③ 柔軟性		相手の立場を理解し、意見を聴き、正確に理解することができる。				○
		④ 状況把握力		自他の役割を把握して、最適な行動をすることができる。				○
		⑤ 規律性		様々な場面でのルールや約束を守り、責任ある行動がとれる。				○
		⑥ ストレスコントロール力		原因を取り除き、適切な対処方法を理解し行動が取れる。				○
4. 倫理観		① 倫理性		相手の立場、気持ちになって、「楽しい」「喜び」を伝えることができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	30	20					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10							10
	技能に関す		20	30						50
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価		5							5
	関心・意欲に関する評価		10		20					30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各授業内で講義・実習を実施。 コミュニケーション・ワーク。指導力の向上に努力精進。 実習の安全管理、心身の健康、体調の自己管理責任。					ニュースポーツとは何かを考え、意義を知る。 ニュースポーツ実習を通じ、展開の方法、組み立てを知り実習することができる。 ニュースポーツのルールを知り、社会人としてのルール、約束ごとを守り、適切な態度・言動が取れることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	①ニューススポーツ実習 オリエンテーション ニューススポーツとは何かを考える 「スポーツの発達史」	面接授業 Let's Enjoy to New Sports 理想的な有酸素運動	ニューススポーツの基本学修 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題	90
	種類・意義を理解する スポーツは素晴らしい			
第 2 回 ／	②ニューススポーツ実習 種類種目調べ 概要と特性 ルール把握 他者とのコミュニケーションを高めるスポーツ	面接授業 展開・組み立て グループ運営	ニューススポーツの基本 「素材・アクティビティ」 概要と特性、ルール把握 学修反復問題	90
	体が動く 明るく元気になる 仲間ができる 健康になる いる			
第 3 回	③ニューススポーツ実習 スポーツマンシップとフェアプレー精神。RICE	面接授業 展開・組み立て グループ運営 一体感	概要と特性 個人と集団(仲間)が理解できる 「楽しみ・夢づくり・幸せづくり」の共感 共学―共楽―共励―共通体験―共喜―共感、共生 学修反復問題	90
	スポーツをする利点は スポーツ実施に対する考え方。 ” みんなで楽しむ”			
第 4 回 ／	④ニューススポーツ実習 国民体育大会 オリンピック・パラリンピックの歴史	面接授業 グループ運営 歴史を知る	概要と特性、ルール把握 学修反復問題 レポート1 イベント計画案	90
	歴史 憲章 シンボルマーク」は何故五輪 世界五大陸			
第 5 回 ／	⑤ニューススポーツ実習 卓球（シングルス ダブルス）	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	球技の一種 一球入魂			
第 6 回 ／	⑥ニューススポーツ実習 アルティメット	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握 レポート1 イベント計画案	90
	フライングディスクを使用 ダイビングカット ダイビングキャッチの魅力			
第 7 回 ／	⑦ニューススポーツ実習 ユニホック	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	6人対6人 ゴールスティックをつかいオールをシュートする競技			
第 8 回 ／	⑧ニューススポーツ実習 グランドゴルフ	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	スタートからポストまで 打数の少なさを競う。トマリ ホールインワン			
第 9 回 ／	⑨ニューススポーツ実習 ミニマラソン	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	何故？マラソンは4 2, 1 9 5になったのか？			
第 10 回 ／	⑩ニューススポーツ実習 フットサル	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	子どもから女子 比較的安全にプレーできる 4秒ルール。			
第 11 回 ／	⑪ニューススポーツ実習 ウォーキングサッカー&サッカー	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	歩行5人。1 1人 2チーム内で行われるスポーツ競技 チームプレー チームワーク			
第 12 回 ／	⑫ニューススポーツ実習 インディアカ&フリンゴ	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	赤い羽根のついたシャトルをネットで挟んでチーム4人相対して打ち合う競技 エブロン上のクロス ракет をかわりにバウンドさせて キャップボールする			
第 13 回 ／	⑬ニューススポーツ実習 バドミントン（シングルス ダブルス）	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	コートとの両側にプレーヤーが位置し、シャトルをラケットで打ち合う			
第 14 回 ／	⑭ニューススポーツ実習 キンボール	面接授業 グループ運営 模擬試合と審判体験	概要と特性、ルール把握	90
	「オムニキン」 グレー・ピンク・ブラック レシーブの繰り返し			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLB31S020S		総合教養科目 基本教養科目		現代徳育論 Contemporary Moral Education Theory		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	建学の精神である「教育は徳なり」を考察する場として「徳」の現代的な意義と実践する力を身につける。 従来の社会規範からの批判に留まることなく、社会的・教育的側面から理想的な人間像を目標に定め、そこに至る過程を考察する。										
	キーワード 徳育 人間力 実践力		学修教育目標	「教育は徳なり」の理解を広げ、「徳」を実践する力、人間力をレベルアップすることを達成する。さらに、「徳」についての学修内容を自分の内面に取り入れ、それを実践するという「徳育」の積み重ねを目標とする。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
人間の価値観が多様化し、心の豊かさが失われているといわれる今日、人間形成の根幹としての「心の教育」「生き方の教育」が重要であるということはいうまでもない。この授業では、現代の青年期の実態を見据えながら、人間としての生き方、在り方を踏まえ、自分の生き方をよく考え、人生を切り開く力の育成を図る。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「道德教育の研究」「特別活動指導法」。 徳育の目的が人間を形成することであると同時に、マナーやルールを遵守することであることを理解する。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
中学校学習指導要領解説 道德編（H29 告示）					授業中に適宜指示する。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。										
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。										
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。			話し合いに積極的に取り組む。						◎	
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。			授業中の規律やルールを守り、積極的に学修に取り組む。						○	
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			授業で学んだことを学校での生活や日常生活に生かす。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性									
		② 働きかけ力			・ 集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。						◎
		③ 実行力			・ 自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			・ 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。						○
		② 計画力									
		③ 創造力			・ 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。 ・ 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			・ 他者との話し合いの場面において、自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。						◎
		② 傾聴力			・ 他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。						○
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性			・ 社会人として、さまざまな場面でのルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 ・ 規律や礼儀が特に求められる場目では、適切な態度・行動をとることができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			・ 自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。 ・ 建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10				15	55
	技能に関する評価					5				5
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10	5			5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・ 徳育の学修内容について、心の面と行動面の両方がバランスよく理解できており、行動や態度に表れている。 ・ 各項目の理解度が 80%以上である。					・ 徳育の学修内容を理解し、行動に移そうとしている。 ・ 各項目の理解度が 60%以上である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ―徳育の意義―	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション		
	・「徳育」についての初発の感想を書く			
第 2 回 ／	ディスカッション（1） ―具体的な実践例及び価値の考察 1― 「向上心、個性の伸長」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「徳育」についての復習	30
	・振り返りシートを書く			
第 3 回 ／	ディスカッション（2） ―具体的な実践例及び価値の考察 2― 「希望と勇気、克己と強い意志」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「道徳的価値」についての予習	30
	・振り返りシートを書く			
第 4 回 ／	ディスカッション（3） ―具体的な実践例及び価値の考察 3― 「自主、自律、自由と責任」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「道徳的価値」についての予習	30
	・振り返りシートを書く			
第 5 回 ／	ディスカッション（4） ―具体的な実践例及び価値の考察 4― 「思いやり、感謝」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「道徳的価値」についての予習	30
	・振り返りシートを書く			
第 6 回 ／	ディスカッション（5） ―具体的な実践例及び価値の考察 5― 「友情、信頼」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「道徳的価値」についての復習	30
	・振り返りシートを書く			
第 7 回 ／	ディスカッション（6） ―具体的な実践例及び価値の考察 6― 「相互理解、寛容」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「道徳的価値」についての復習	30
	・振り返りシートを書く			
第 8 回 ／	ディスカッション（7） ―具体的な実践例及び価値の考察 7― 「家族愛、家庭生活の充実」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「道徳的価値」についての復習	30
	・振り返りシートを書く			
第 9 回 ／	ディスカッション（8） ―具体的な実践例及び価値の考察 8― 「遵法精神、公德心」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「道徳的価値」についての復習	30
	・振り返りシートを書く			
第 10 回 ／	ディスカッション（9） ―具体的な実践例及び価値の考察 9― 「公正、公平、社会正義」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	ノートの整理	30
	・振り返りシートを書く			
第 11 回 ／	ディスカッション（10） ―具体的な実践例及び価値の考察 10― 「勤労、社会参画、公共の精神」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	座右の銘についての予習	30
	・振り返りシートを書く			
第 12 回 ／	ディスカッション（11） ―具体的な実践例及び価値の考察 11― 「生命の尊さ」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	座右の銘についての予習	30
	・振り返りシートを書く			
第 13 回 ／	ディスカッション（12） ―具体的な実践例及び価値の考察 12― 「自然愛護、感動、畏敬の念、よりよく生きる喜び」という価値について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	座右の銘についての予習	30
	・振り返りシートを書く			
第 14 回 ／	座右の銘について	【面接授業またはオンデマンドによる遠隔授業】 ・講義 ・短時間のディスカッション	「徳育」についての復習	30
	・振り返りシートを書く			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F021S		総合教養科目 基本教養科目	堺学（堺の文化と歴史） Study of Sakai City (culture and history of Sakai City)		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	本学の所在する堺市は注目すべき歴史遺産や中世・近世・近代・現代にわたるユニークな都市としての歴史がある。世界遺産をめざす百舌鳥古墳群、ヨーロッパにまで知られた中世海外交易都市、鎖国と大和川の付け替えでも消滅しなかった近世商工都市、海浜を生かした近代アーバンリゾート都市の歴史など。そこで生み出された文化は現代の社会生活にも生きている。学生生活をはじめ、地域社会で活動していくうえで、その歴史や文化にふれることは有意義である。単に郷土史を知ることではなく、都市が形成され、成長・変遷の様子をさぐり、そこに生きる生き方・暮らし方にコミットし、未来につなぐことができるようになる。								
	キーワード	都市、文化、歴史、堺、百舌鳥古墳群 世界文化遺産	学修教育目標	大学の立地する都市の歴史・文化・まちづくりの姿を具体的に理解し、学生生活中はいうにおよばず、将来の社会生活や活動に有益な知識や見方・考え方を身につけることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
中・近世、近・現代と連続して存立してきた都市が、時代により、その特徴や性格が変遷してきたことに留意し、次の時代にあるべき都市の姿を考えることも大切で、都市から国、さらに世界を見る視点を養う。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
毎授業ごとに具体的テーマを設定。用意する資料・レジュメを活用する。教員からの見方だけでなく、いろんな見方・捉え方があるはずなので、質問・設問時間をとる。資料・レジュメは整理・保存・毎時持参すること。今年度はコロナ禍のため、現地学外授業は行なわない。									
教 科 書					参考書・リザーブブック				
書 名：堺意外史１００話（２０１９年） 著者名：中井 正弘 出版社：ホウユウ出版部					開講時または授業時に紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※１）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。								
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。								
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。								
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。			所定の学修以外に自主的に博物館等の見学学修を行う。					○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			学内図書館にも本授業の参考になる図書があるので予習・復習に活用。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		学外授業に積極的に出席すること。					◎
		② 働きかけ力		わからないことを積極的に質問すること。					○
		③ 実行力		図書館利用					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		わかること、わからないことを明確にして学修にはげむ。					◎
		② 計画力		課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					△
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自主的な在住地等の博物館・資料館見学を共同で取り組む。					○
		② 傾聴力		授業を熱心に受けるだけでなく、他の学生に迷惑をかけない。					○
		③ 柔軟性		困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。					△
		④ 状況把握力		授業の雰囲気盛り上げるように状況把握をする。					○
		⑤ 規律性		社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。					△
		⑥ ストレスコントロール力		さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。					△
4. 倫理観		① 倫理性		受講学生同士の協力、助け合って学力をつける。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
評価方法		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
指標と評価割合									
総合評価割合		59		20	21				100
評価 の 指標	知識に関する評価	30		10	5				45
	技能に関する評価				6				6
	応用力に関する評価	10							10
	チームワークに関する評価				5				5
	関心・意欲に関する評価	19		10	5				34
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
堺学についての積極的な学修をふまえ、さらに他都市の文化と歴史についての関心と学修の意欲を持つ。				堺の文化と歴史について相応の理解と関心を持つ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	シラバスなどの説明 世界遺産をめざす百舌鳥・古市古墳群と大山古墳（仁徳陵）	面接授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 2 回 ／	泉北丘陵は古代のハイテク須恵器の一大生産地帯	課題研究による授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 3 回 ／	河内鋳物師の活躍	面接授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 4 回 ／	律令国家体制（奈良時代）と堺出身の僧・行基	課題研究による授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 5 回 ／	東南・東アジアの繁栄と堺商人の海外交易の実態	面接授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 6 回 ／	泉南仏国といわれた中世都市堺、千利休の大成させた茶の湯文化	課題研究による授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 7 回 ／	キリスト教宣教師が見た戦国時代の堺と補陀落渡海	面接授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 8 回 ／	大坂夏の陣後のみごとな復興計画都市	課題研究による授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 9 回 ／	井原西鶴が紹介した江戸時代元禄期の堺、大坂と随分異なった気質はどうして生まれたか	面接授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 10 回 ／	鎖国と大和川の付け替えでも消滅しなかった町と港湾・新地・新田開発	課題研究による授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 11 回 ／	大阪府に併合された堺県の近代教育と産業振興	面接授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 12 回 ／	海浜リゾート都市だった近代（大浜・浜寺と与謝野晶子）	課題研究による授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 13 回 ／	アジア太平洋戦争下のまちと堺大空襲	面接授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	受講態度、積極性（質問など）			
第 14 回 ／	臨海工業地帯の造成と泉北ニュータウン建設、 周辺町村合併および政令指定都市と現在のまちづくりの課題	課題研究による授業	予習：教科書の該当する章・節を熟読 復習：My TGU.net に掲載のレジュメ・資料および参考図書を熟読、ノートの整理	予習 30 復習 60
	まとめ			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
LLB31S022S		総合教養科目 基本教養科目		日本の文学 Japanese Literature		2単位	選 択	講 義	1 年 次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		講義の前半では、文化遺産としての古代文学・歴史について学ぶ。 文化遺産としての古代文学・歴史について学ぶ。 日本文化の国際化という流れの中にあって、まず自分の国の文化についての正しい認識が必要と考えられる。学生が日本文学の発生と展開を学ぶことにより、日本人の心性を探り、広く人間と文学についても考える力をつける。主として『万葉集』等上代文学を通して、言語はもとより、起伏あるわが国の自然・風土、さらに時代や社会生活が如何に優れた文学作品を生み育んだかを学ぶ。なお、NHKの教育テレビや市販のビデオも許可を得て教材として使用することがある。魅力的な教養番組は大いに活用するつもりでいる。視覚にも訴えながら、日本の古代の行事などについて分かりやすく講義するつもりである。 講義の後半では、近現代文学の一端に触れることを通して、日本の近現代文学について学ぶ。								
キーワード		日本文学史		学修教育目標		学生が日本文学の発生と展開を学ぶことにより、日本人の心性について理解ができ、広く人間と文学についても考える力を養うことができる。又、日本の古代の行事などについて基本的な知識を身につけることができる。 また、近現代文学の一端に触れることを通して、日本の近現代文学について自分の考えを述べることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
臨場感をもった聴覚教材を多用して、歴史の真実に迫る。シラバスのタイトルなどの内容をあらかじめ調査しておく方が興味がもてよう。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
特になし。										
教 科 書						参考書・リザーブドブック				
オリジナルのプリントを配布する。						なし				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。									
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。									
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			歴史や文学を通して先達の「知恵」を学び、実社会での問題解決能力を身につける。						
									◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			教材へ関心を持ち進んで課題に取り組む力を身につける。					◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			自分から問題を解明し、自分の考えを提示していく力を身につける。					◎
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力								
		② 傾聴力			相手の意見や話を丁寧に聴く力を身につける。					◎
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	41	24	20		15			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	41	24	10						75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価			5						5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価			5		15				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
古代の日本文学と歴史的背景を正しく学ぶ。各回の内容（講義と視聴覚教材）はもちろんそれぞれの授業内容の相互関連性をもよく理解されている。					授業内容の相互関連性は多少分かりづらい面があっても、各回の内容について興味を持てる部分については詳しく感想や疑問を投げかけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンス。前半は神話の世界から万葉時代まで（古典文学）。—文学と歴史のあいだ—とは何か、授業の進め方と現代における文学の研究意義や歴史学との関係について述べる。後半は日本の近世文学から近代文学へ、さらに現代文学について。全体としてオムニバス方式で開講する意味について述べる。	講義・レジュメはパワーポイント 対面授業		予習 30 復習 30
第 2 回 ／	シャーマン（卑弥呼）について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 3 回 ／	出雲神話について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 4 回 ／	伊勢神宮の ^{さいふう} 斎宮について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 5 回 ／	古事記の成立と内容について調べたことを3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 6 回 ／	万葉時代と現代の生活の相違点を3つ述べよ。	課題	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 7 回 ／	近代文学	対面授業	・学習したプリント教材やDVD教材の復習 ・次の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 8 回 ／	後半授業の進め方 日本の近世文学（1）—上方文学～○○作家～—	講義と学生による指導演習①班 （上方文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
	井原西鶴・松尾芭蕉・近松門左衛門等を取り上げる			
第 9 回 ／	前回授業の復習テスト①と 日本の近世文学（2）—江戸文学～○○本～—	講義と学生による指導演習②班 （江戸文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
	洒落本・滑稽本・黄表紙・読本・人情本・合巻・狂歌・川柳等を取り上げる			
第 10 回 ／	前回授業の復習テスト②と 日本の近現代文学（1）—明治文学～○○主義～—	講義と学生による指導演習③班 （明治文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
	写実主義・擬古典主義・浪漫主義・自然主義・反自然主義について取り上げます			
第 11 回 ／	中間評価①（第9回～第11回学修内容復習）と 日本の近現代文学（2）—大正文学～○○派・主義～—	講義と学生による指導演習④班 （大正文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
	耽美派・白樺派・新現実主義等について取り上げます			
第 12 回 ／	前回授業の復習テスト③と 日本の近現代文学（3）—昭和文学～○○文学・派～—	講義と学生による指導演習⑤班 （昭和文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
	プロレタリア文学・新感覚派・新興芸術派・新心理主義等について取り上げ			
第 13 回 ／	前回授業の復習テスト④と 日本の近現代文学（4）—平成文学—	講義と学生による指導演習⑤班 （平成文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
	平成の文学を取り上げます			
第 14 回 ／	中間評価②（第12回～第14回学修内容復習） と児童文学	講義と学生による指導演習⑥班 （平成文学） 対面授業	・「常用国語便覧」（浜島書店）※高校時代のものがあればそれでよい。 ・加藤周一「日本文学史序説」上・下、筑摩書房文庫 ※シラバス該当部分の前回文の復習と今回分の予習	予復習 60
	児童文学等について取り上げます			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31S023S	総合教養科目 基本教養科目	現代社会論 Problems of Contemporary Societies		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	数年後に社会に出ていく学齢として、身边から世界情勢までを含んだ社会というものへの関心と知識は不可欠となります。大学生として社会に目を向ける態勢を整え、常識的知識を獲得することが本科目の目的となります。							
	キーワード	現代、社会、現代社会、社会問題	学修教育目標	世の中に関する一般的・常識的な知識を身につけ、現在の新聞・テレビ・ネット等のメディアで伝えられる事柄に関心を持ち理解できるようになること。 また、自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
現代社会の現状および諸問題に関する資料を教員が準備し、それに関して受講生が調査・考察・発表・質疑応答を行います。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
人間と社会に関する積極的な関心および探究意欲								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				(適宜、指示する)				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		現代社会の諸問題とその背景を理解できる。○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力	課題を完遂するまでのステップを確認できる。					○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
 ※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	45		25	30				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	45		10	20					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
現代社会における諸問題をそのそれぞれの背景とそれらの相互関連のもとに理解し、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					現代社会における諸問題を個別的に理解し、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス	課題研究による授業	課題研究	120
第 2 回 ／	次回以降の準備学修等	課題研究による授業	課題研究	120
第 3 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（1）	課題研究による授業	課題研究	120
第 4 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（2）	課題研究による授業	課題研究	120
第 5 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（3）	課題研究による授業	課題研究	120
第 6 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（4）	課題研究による授業	課題研究	120
第 7 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（5）	課題研究による授業	課題研究	120
第 8 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（6）	課題研究による授業	課題研究	120
第 9 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（7）	課題研究による授業	課題研究	120
第 10 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（8）	課題研究による授業	課題研究	120
第 11 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（9）	課題研究による授業	課題研究	120
第 12 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（10）	課題研究による授業	課題研究	120
第 13 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（11）	課題研究による授業	課題研究	120
第 14 回 ／	受講生による現代社会に関する調査・考察・発表（12）	課題研究による授業	課題研究	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB11S024S	総合教養科目 基本教養科目	暮らしの中の憲法 Constitution in Daily Life		2単位	選 択	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	本科目は、憲法の規定する人権と統治機構の基本事項を理解した上で、憲法の歴史や憲法の制度の趣旨・目的・機能に関する諸々の学説を比較検討することを通して、様々な現実の憲法問題に対して、一定の判断を下せるような法的思考力を養うことを目的とする。							
キーワード	最高法規 基本的人権 国民主権と天皇象徴制 平和主義・戦争放棄 統治機構・地方自治	学修教育目標	本科目は教員による講義を中心とし、適宜、受講生との質疑・応答などの討論を盛り込むこととする。 さらに、レポートの提出や授業での討論を通じて、受講生が憲法の考え方を応用・実践できるような思考様式を習得する。 また、この講義では憲法とは何かを考えながら、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理についての理解と基礎知識の獲得を目標に、憲法がかかえる今日の諸課題がどのようなものが存在するのかも国際・国内を越えて考えることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、今現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実在即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
実質的な講義が始まる前に、できる限り憲法前文を読んでおくこと。憲法条文についてはIT等を活用して自ら資料収集すること。講義の前には関連する条文を読んでおくこと、また常に今現代の社会に目向けるため、新聞やテレビ等の時事にも興味と関心を持つように心がけましょう。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：スタート憲法 （第2版） 著者名：吉田仁美 編著 出版社：成文堂				講義の際に必要な応じて紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		この授業を通じて、健康・スポーツに関する憲法の知識を身につける。					○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		この授業を通じて、健康・スポーツに関する憲法の実技実践力を身につける。					△
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		この授業を通じて、憲法を学びリーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。					△
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		憲法を学ぶ事により、社会の一員として適切に振る舞う力を身につける。					◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		この授業を通じて、憲法等の学習成果などにより、計画的に取り組む力を身につける。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	授業準備、課題、演習、試験などに主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	最高法規を理解し、社会の諸問題に関心をもち様々な課題や試験に取り組むことができる。					◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性	自分のルールやり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。					○
		④ 状況把握力	法治国家の一員としての責任ある行動がとれるよう人格形成ができる。					○
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	人権に沿った社会人としての自覚が持てる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			59						41	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		20						20	40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20							20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		19						21	40
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
憲法の授業で学んだ事を全て明確に説明出来る。					授業を通じて、憲法の成り立ちや現在の具体的問題を説明出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	憲法を学ぶ ・ 憲法の意義、学び方 ・ 成績評価方法等	課題研究による授業	憲法について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 2 回 ／	国際協調主義 ・ 周辺諸国との領土問題 ・ 自衛権	課題研究による授業	国際協調主義について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 3 回 ／	憲法改正問題 ・ 憲法 9 条を中心とする憲法改正論議	課題研究による授業	憲法改正問題について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 4 回 ／	平和と憲法 ・ 憲法 9 条の平和主義 ・ 国際協調主義	課題研究による授業	国際協調主義について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 5 回 ／	政治と憲法 ・ 政治のあり方（三権分立・議院内閣制等）	課題研究による授業	三権分立・議院内閣制について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 6 回 ／	経済と憲法 ・ 資本主義経済と制度的保障	課題研究による授業	資本主義経済について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 7 回 ／	税金と憲法 ・ 納税の義務と租税法律主義	課題研究による授業	納税の義務について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 8 回 ／	社会保障と憲法 ・ 生存権的基本権（生活保護など）	課題研究による授業	社会保障について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 9 回 ／	報道と憲法 ・ 表現の自由・知る権利・報道の自由	課題研究による授業	表現の自由・知る権利・報道の自由について 予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 10 回 ／	プライバシーと憲法 ・ 個人のプライバシー権と個人情報保護	課題研究による授業	プライバシー権について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 11 回 ／	刑事訴訟と憲法 ・ 奴隷的拘束からの自由と刑事被告人の権利	課題研究による授業	刑事訴訟について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 12 回 ／	裁判所と憲法 ・ 法令審査権と三審制 ・ 裁判員制度	課題研究による授業	裁判所について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 13 回 ／	地方自治法と憲法 ・ 地方自治制度と地方分権	課題研究による授業	地方自治について予習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30
第 14 回 ／	まとめ （第 1 回から第 13 回の内容のまとめを行う）	課題研究による授業	これまでの授業の内容について復習すること 授業後はノートを見て振り返り、復習すること	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F025S		総合教養科目 基本教養科目		法と社会 Law and Society		2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的										
	人類がより善い世界を形成していくためには、現在さしあたり最終審級となっている各国家の主権者たる各国民が、実質的に高い民度を持つ市民から形作られることが必要である。法的素養はその民度を構成するものとして重要かつ不可欠な要素となっている。本科目はこの法的素養を涵養することを目的とする。									
キーワード				学修教育目標						
	国家、主権、民主主義、法、憲法、人権、市民性				法の本質、立法と民主主義の機序、主権者としての自覚、等々、シティズンシップに不可欠な最低限の法現象に対する理解および真の善き法の感覚とリーガルマインドの陶冶。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
人間の社会的動物（ゾーン・ポリティコン）という性質は、人間を動物から区別し、人間が野蛮さから距離をとりうることを示す表徴です。人間的な社会において真に善い法・規則・ルールとはどのようなものであるべきなのか、ということを常に念頭において取り組んでください。 （注記：当該授業担当教員は法学を専門とする者ではない。）										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
人間と社会に関する積極的な関心および探究意欲										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
なし					(適宜指示する)					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。									
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。									
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			法的思考の技法およびその基礎となる教養の獲得						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			課題への積極的な取り組み					○
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力								
		② 計画力			課題完成までの段階の確認					○
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自身の思考物の言語による表現					○
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	50		30						80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			20						20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会・国家における法の本質と現象をその具体的事例とともに深く把握し、それに基づき主権者として真の立法者たる十分な市民性の形成がなされている。					社会・国家における法の本質と現象を一般的に理解し、主権者としての自覚を伴う市民性の形成がなされている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス（一）	課題研究による授業	課題研究	120
第 2 回 ／	ガイダンス（二）	課題研究による授業	課題研究	120
第 3 回 ／	法とは（一）	課題研究による授業	課題研究	120
第 4 回 ／	法とは（二）	課題研究による授業	課題研究	120
第 5 回 ／	近代法にいたる歴史	課題研究による授業	課題研究	120
第 6 回 ／	近代国家における法体系	課題研究による授業	課題研究	120
第 7 回 ／	主権、民主主義、立法、国家、政治（一）	課題研究による授業	課題研究	120
第 8 回 ／	主権、民主主義、立法、国家、政治（二）	課題研究による授業	課題研究	120
第 9 回 ／	憲法	課題研究による授業	課題研究	120
第 10 回 ／	社会運動、市民的不服従	課題研究による授業	課題研究	120
第 11 回 ／	人権問題の事例（一）	課題研究による授業	課題研究	120
第 12 回 ／	人権問題の事例（二）	課題研究による授業	課題研究	120
第 13 回 ／	人権問題の事例（三）	課題研究による授業	課題研究	120
第 14 回 ／	人権問題の事例（四）	課題研究による授業	課題研究	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F026S	総合教養科目 基本教養科目	近代史の探究 Research in Modern History		2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	現代は世界各地で宗教紛争が起こり、異文化同士が衝突する時代である。近代という時代（16～19世紀）は、現代の直前の時代としてきわめて重要な意味を持っている。近代の歴史とこれに続く現代の歴史を学ぶことは、今後の世界を生きていくうえで必要不可欠と言える。 以上のことをふまえ、この授業では、現代世界の成り立ちについて、近現代の歴史を学ぶことを通して、理解できるようになることを目的とする。							
	キーワード 異文化理解 宗教 グローバリズム ナショナリズム 文明の衝突		学修教育目標	近代の歴史のおおまかな流れを理解し、説明できるようになる。 現代の国際問題のニュースについて関心・興味をもってアクセスできるようになり、自分でより深く調査できるようになる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
面接授業とオンデマンドによる遠隔授業を交互に行う（詳細は第1回目の授業で説明する）。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「西洋史の探究」「心性の歴史」「宗教と文化」と関連する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。							
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。							
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		近代史に関する理解を土台にして、現代の世界情勢について自分なりの考え方を持つことができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。					○
		② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。					○
		③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。					○
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。					○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。					◎
		② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。					◎
		③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。					○
		④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。					○
		⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。					○
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。					○
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		42				13	100
評価の指標	知識に関する評価		25		14				3	42
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価		10		14				3	27
	チームワーク力に関する評価								1	1
	関心・意欲に関する評価		10		14				3	27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学んだことをもとにして、現代の国際情勢に関するニュースや書籍等に自らアクセスし、それらの資料をもとにして、自分なりの考え方を深めることができるようになる。					授業で学んだことから、現代の国際情勢に関する自分なりの考え方を持つことができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 1. 現代と近代史の関係	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 2 回 ／	2. 冷戦とは何か	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 3 回 ／	3. 孤立国家としての日本	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 4 回 ／	4. アメリカの歴史と宗教	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 5 回 ／	5. 現在のアメリカの政治	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	30
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 6 回 ／	6. アメリカと日本の関係	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 7 回 ／	7. 多極化・多文明化する世界	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 8 回 ／	8. 「文明の衝突」説	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 9 回 ／	9. 現代世界と宗教	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 10 回 ／	10. 近代史のなかの日本とアジア①：明治・大正	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 11 回 ／	11. 現代史のなかの日本とアジア②：昭和・平成	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 12 回 ／	12. 近代史のなかの日本と西洋①：明治・大正	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 13 回 ／	13. 現代史のなかの日本と西洋②：昭和・平成	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 14 回 ／	14. 今後の日本と世界	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31S027S	総合教養科目 基本教養科目	西洋史の探究 Research in Western History		2単位	選 択	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	人間は歴史や文化と切り離せない。西洋史の事例を中心に、人間・歴史・文化の関係について学ぶ。 1. 異文化、特に西洋文化の多様な側面の理解 2. 歴史的思考力の獲得 3. 西洋の歴史に関する教養を身につけること							
	キーワード	異文化理解 女性史 死の歴史	学修教育目標	1. 異文化、とくに西洋文化の一側面を理解できる。 2. 歴史的な思考力を身につけることができる。 3. 西洋の歴史や文化に関する教養を深めることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
面接授業とオンデマンドによる遠隔授業を交互に行う（詳細は第1回目の授業で説明する）。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「近代史の探究」「心性の歴史」「宗教と文化」に関連する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。							
②	心理の分析方法を身につける。							
③	心理カウンセリングの知識を身につける。							
④	心理カウンセリングの技法を身につける。							
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。							
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		西洋の歴史・文化に関する知識を身につけることができる。					△
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。					○
		② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。					△
		③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。					△
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。					△
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。					△
		② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。					△
		③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。					△
		④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。					△
		⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。					△
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。					△
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		42				13	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		14				3	42
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価		10		14				3	27
	チームワーク力に関する評価								1	1
	関心・意欲に関する評価		10		14				3	27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で獲得した西洋の歴史や文化に関する知識を土台にして、興味関心のある情報に自らアクセスし、さらに知識を深めることができるようになる。					授業を通して、今まで知らなかった西洋の歴史や文化に関する知識を身につけることができるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション なぜ西洋の歴史を学ぶのか？	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 2 回 ／	1. 女性の歴史 西洋中世の男と女①	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 3 回 ／	西洋中世の男と女②	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 4 回 ／	西洋中世・近世の夫婦のあり方①	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 5 回 ／	西洋中世・近世の夫婦のあり方②	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 6 回 ／	日本中世の男と女①	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 7 回 ／	日本中世の男と女②	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 8 回 ／	西洋と日本の比較①	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 9 回 ／	2. 死の歴史 西洋中世の地獄のイメージ①	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 10 回 ／	西洋中世の地獄のイメージ②	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 11 回 ／	煉獄（れんごく）の誕生	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 12 回 ／	西洋中世末の「死の文化」	オンデマンドによる遠隔授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 13 回 ／	日本中世の地獄のイメージ	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 14 回 ／	西洋と日本の比較②	面接授業	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F028S	総合教養科目 基本教養科目	暮らしと化学 Living and Chemistry		2単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	日常生活の中で無意識に接する「化学」に焦点を当て、自然界に存在する化学反応と人間が作り出した物質の変化とを考察する。人類の発展を支える一方で環境破壊を起こす二面性を知り、検証する。現代の便利な食を支える化学物質を通じ、日本人の食のありかたも考察する。							
キーワード	自然界の物質循環 日本人の食料と化学	学修教育目標	1. 基本的な化学反応式が書けるようになること。 2. 自然界の化学変化、特に光合成と呼吸の関係の理解すること。 3. 日本人の食と化学物質の関係の理解を目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
原則として講義形式で行う。必要に応じて演習を行う。基礎の部分の定着を図るために授業中に小テストを行う。高校で化学を履修していない学生も理解できるように基礎から行うが、指示通りに学修を積み上げて行くことが必要である。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
化学を扱う全ての科目の基礎となる。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
必要に応じてレジュメを配布				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		基本的な化学についての理解を深め、身の回りの化学に関する事象に興味、関心を持つことができる。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	問題意識を持って積極的に授業に参加できる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	授業への参加だけでなく、試験や課題に備えた授業外での学修ができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	与えられたテーマに対してどのように取り組めばよいのか理解できる。					◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	自然界での人間の振る舞いについて倫理観を持って考えることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合計
		総合評価割合	50	20	20				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価	40	15	5					5	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	10	5	5					5	25
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10					10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自然界での物質の循環や食糧生産における化学を理解し、自然界での人間のあり方について自分なりの考えを持つことができる。					化学の基本を理解し、普段の生活と関連付けることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス、化学の基礎① 授業の進め方、周期表の見方	講義（面接授業）※ ※すべての回において面接授業を基本としますが、受講人数や感染状況で課題提出となる場合があります。	授業内容の復習	60
第 2 回 ／	化学の基礎② 電解質と非電解質	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 3 回 ／	化学の基礎③ 原子構造とイオン結合	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 4 回 ／	化学の基礎④ イオン結合と共有結合	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 5 回 ／	化学の基礎⑤ 電離式	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 6 回 ／	化学の基礎⑥ 酸とアルカリ	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 7 回 ／	化学の基礎⑦ 中和反応	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 8 回 ／	自然界の化学 光合成と呼吸、食物連鎖、生物濃縮	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 9 回 ／	食に関する DVD「食べ物の源をたどる」①	講義とDVDの視聴（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 10 回 ／	食に関する DVD「食べ物の源をたどる」②	講義とDVDの視聴（面接授業）※	授業内容の復習と課題の作成	60
	小テスト、課題			
第 11 回 ／	化学変化と状態変化 化学変化と状態変化の違い、特に水の状態変化について学修する。	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 12 回 ／	人工の化学 人工的に合成された化学物質の功罪について学修する。	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 13 回 ／	身の回りの化学変化 身の回りで起きている化学変化について学修する。	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			
第 14 回 ／	「溶ける」とは 電解質と非電解質における溶解のメカニズムの違いおよびペットボトル症候群について学修する。	講義と演習（面接授業）※	授業内容の復習	60
	小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
LLB31F029S		総合教養科目 基本教養科目		わかる数学 Simple Mathematics		2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	日常生活や就職活動で困らない数学の基礎を学ぶ。授業科目名は「わかる数学」だが、「わかる」と「できる」は別の次元である。目標として、「わかる」を超えて「できる」状態にすることを目指す。										
	キーワード 数学の基礎 「わかる」から「できる」へ			学修教育目標	1. 基本的な計算ができる。 2. 文章題に慣れ、自分の力で問題が解ける。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
授業は、1. 基本事項の説明 2. 演習 3. 解説 4. 小テスト の流れで進める。また、必要に応じて課題を出す。小テストの内容は次回の授業で解説することで、間違えた問題は授業終了後にもう一度やり直す学修習慣を身につけることが大切である。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
数式を扱う全ての科目の基礎となる。就職活動でも必ず必要な能力である。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
必要に応じてレジュメを配布					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。										
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。										
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。										
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。			社会に出るために必要な数学の素養を身につけることができる。						◎	
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			問題意識を持って積極的に授業に参加できる。						◎
		② 働きかけ力									
		③ 実行力			授業への参加だけでなく、試験や課題に備えた授業外での学修ができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			どのように学修すればできるようになるか自分で見いだすことができる。						◎
		② 計画力			授業内容や小テストに合わせ、計画的に学修を進めることができる。						◎
		③ 創造力			新しい問題に自ら取り組むことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力									
		② 傾聴力									
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50	25	16				9	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40	20	8						68
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	10	5	8						23
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								9	9
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
応用的な問題にも挑戦することができ、就職試験の問題も自力で解くことができる。					授業で扱った内容について基本的な問題は自力で解ける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンスと基礎力テスト (授業のガイダンスと現状把握)	講義と試験 面接授業	授業で説明する課題に取り組む	60
第 2 回 ／	基礎力テストの返却と解説	講義 面接授業	基礎力テストのやり直し	60
第 3 回 ／	素数について エラトステネスのふるい、素因数分解	講義と演習 面接授業	基礎力テストのやり直し	60
第 4 回 ／	最大公約数、最小公倍数（1）　－倍数と約数の基本－ 計算方法の理解	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 5 回 ／	最大公約数、最小公倍数（2）　－倍数と約数を使う（初級）－ 文章題	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 6 回 ／	最大公約数、最小公倍数（3）－倍数と約数を使う（中級）－ 文章題	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 7 回 ／	計算の基礎（1）　－計算力強化（初級）－ 正負の数	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 8 回 ／	計算の基礎（2）　－計算力強化（中級）－ 文字式の表現と式の値	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 9 回 ／	方程式（1）　－等式の性質の理解－ 方程式の解き方	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習 課題の解答	60
第 10 回 ／	方程式（2）　－文章を式に直す（初級）－ 文章題	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 11 回 ／	方程式（3）　－文章を式に直す（中級）－ 文章題	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習 課題の解答	60
第 12 回 ／	方程式（4）　－文章を式に直す（上級）－ 文章題	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 13 回 ／	確率の基礎（1） －並べる順を考慮する数え方・顔ぶれに着目した数え方－ 順列・組み合わせ	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60
第 14 回 ／	確率の基礎（2）　－運試しの数学－ 確率	講義と演習 面接授業	授業で配布したプリントの予習と復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31S030S	総合教養科目 基本教養科目	地球の環境 Geosystem Science		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	地球を一つのシステムとしてとらえ、物質・エネルギーの移動を通して地球の環境が形成されていることを理解する。また、地球の姿を数値的に取り扱う方法についても学び、環境変動のタイムスケールについて学ぶ。解析手法として、ボックスモデルに基づいた環境因子解析の手法を解説する。プレートテクトニクスとプリュームテクトニクス、温室効果のしくみ、オゾン層の役割と形成・破壊のメカニズムなどを取り上げ、地球環境の理解を深めることを目的とする。							
	キーワード	地球システム プレートテクトニクス プリュームテクトニクス	学修教育目標	太陽系や地球の成り立ちを理解し説明できる。 地球を一つのシステムとして理解し、物質循環の時間スケールと空間スケールを理解し計算できる。 地球の内部構造について理解し、そこでの物質循環を理解し、説明できる。 地球の物質循環と環境変動との関わりについて説明できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
地球と宇宙に関する基礎知識を学びながら、地球のこれまでとこれからを考える。 地球上で起きている様々な自然現象に興味・関心を持って欲しい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
地球上で起きている様々な自然現象がニュースなどで取り上げられた時は、どのようなことが起きているのか、関心を持って理解するよう努めてほしい。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書 名：地球大進化 第1集～第6集 著者名：NHK「地球大進化」プロジェクト 出版社：日本放送出版協会				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。							
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。							
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		様々な自然現象がシステムとしての地球の性質を背景に起きていることを理解し説明できる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自ら関心をもって学修することができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	なすべきことを的確に把握できる。					○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見をわかりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力	相手の話を素直に聴き、異なる意見も理解することができる。					○
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合計
		総合評価割合		45		15				40
評価 の 指標	知識に関する評価	40								40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	5							15	20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15				25	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
地球システムのリズムを理解して、様々な自然現象がどのような関係を持って起きているのかを適切な用語を使って説明できる。 地球 46 億年の姿と今後についてイメージできる。					地球システム の概念を理解して、適切な用語を使って現象を説明できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	イントロダクション ①環境とはなにか ②環境問題とはなにか ③地球の基礎知識	講義、演習 面接授業	復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30
	コメントシート、演習			
第 2 回 ／	地球システム（1）－太陽系の形成－ ①太陽系の惑星の特徴	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 3 回 ／	地球システム（2）－地球の形成－ ①太陽系の形成 ②地球の形成史 ②大気の形成 ③温室効果	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 4 回 ／	地球システム（3）－地球システム－ ①システムとはなにか ②地球システム	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 5 回 ／	地球システム（4）－サブシステム間の物質移動－ ①ボックスモデル ②流入量と流出量	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 6 回 ／	地球システム（5）－フィードバック－ ①正のフィードバック（暴走温室効果、全球凍結） ②負のフィードバック（雲アルベドフィードバック）	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 7 回 ／	地球システムの物質循環－物質循環のタイムスケール－ ①動的平衡状態 ②平均滞留時間 ③地球内部を含んだ物質循環	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 8 回 ／	全地球規模の物質循環（1） ①地球の内部構造 ②地球内部の状態	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 9 回 ／	全地球規模の物質循環（2） －数万年以上のタイムスケールを持つ物質循環－ ①プレート ②プレートの動き	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 10 回 ／	全地球規模の物質循環（3）－大陸移動－ ①プレートの動き ②プレートと大陸移動	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 11 回 ／	全地球規模の物質循環（4）－大陸移動の証拠－ ①地球の磁場 ②古地磁気学 ③海洋底の地磁気縞状異常	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 12 回 ／	気候変動（1） ①気温の変化と地球のリズム	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 13 回 ／	気候変動（2） ①長期的な気候変動の状況 ②全地球規模の物質循環と気候変動	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			
第 14 回 ／	気候変動（3）大陸移動と気候変動 ①様々な気候変動の原因	講義、演習 面接授業	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	30 30
	コメントシート、演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F031S	総合教養科目 基本教養科目	茶道と文化 Tea Ceremony and Japanese Culture		2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	（１）裏千家茶道の点前を実習することにより、礼儀作法を習得します。人に対する思いやりや何事にも感謝する気持ちを身につけ、また会得した美しい所作や言葉遣いなどは、仕事や日常生活に直接役立っていきます。 （２）日本の風土に培われた芸術・宗教・哲学・社交を含む総合的な伝統文化である茶道の歴史や精神を学び、海外における日本文化の役割を再認識します。							
	キーワード 伝統文化 茶道 礼儀作法 思いやり 感謝の心		学修教育目標	「初級」の資格の許状を申請できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
日本の伝統文化である茶道を基礎から学び、必要な知識や技能の修得を目指す。日常生活に欠かせない礼儀作法や協調性、そして生活のルールやマナーを身につける実践の場である。授業で身につけた作法を実生活の中で生かしてほしい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書 名：裏千家 茶道 著者名：学校茶道教本編集委員会 出版社：今日庵				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。							
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。							
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。 ◎					
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		日常生活でのルールやマナーを理解できる。 ◎					
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		感謝の心や物に動じない精神力を育むことができる。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					○
		② 働きかけ力	相手を納得させるために協力することの必然性を伝えることができる。					◎
		③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、行動できる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	自分を客観的に分析し、課題を解決しようとすることができる。					◎
		② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					○
		② 傾聴力	相手の気持ちを思いやり、意見をきくことができる。					◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。					○
		④ 状況把握力	自分のおかれている立場を正確に把握できる。					◎
		⑤ 規律性	社会人として必要な礼儀作法やマナーを身につけることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	他人に対する尊敬の気持ちを常に持つことができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50	5	20	20			5	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	10	1	10					1	22
	技能に関する評価	10	1		10				1	22
	応用力に関する評価	10	1						1	12
	チームワーク力に関する評価	10	1						1	12
	関心・意欲に関する評価	10	1	10	10				1	32
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
茶道の基本精神「和敬清寂」を十分理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心を十分表現できる。					茶道の基本精神「和敬清寂」をほぼ理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心をほぼ表現できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	茶道と伝統文化について総論 ①学生への注意 ②呈茶（自分で茶をたてて飲む）	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 2 回 ／	客の作法について（茶・菓子）帛紗の説明 ①おじぎ ②立居振舞 ③呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 3 回 ／	基本的な茶道具の説明 ①帛紗の扱い方 ②呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 4 回 ／	茶道の意義 ー茶道と日常生活ー ①棗・茶杓の清め方 ②呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 5 回 ／	茶の精神 ー和敬清寂・利休七則ー ①茶筌・茶巾・茶碗の扱い方 ②呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 6 回 ／	茶の歴史 ー茶の伝来から鎌倉時代ー ①割稽古総まとめ ②呈茶	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
	小テスト			
第 7 回 ／	レポート課題出題 茶の歴史 ー足利時代ー ①盆略点前 (1)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 8 回 ／	茶の歴史 ー利休と安土桃山時代ー ①盆略点前 (2)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 9 回 ／	レポート提出 ーレポート課題の解説ー 茶道の成立 ①盆略点前 (3)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 10 回 ／	現代の茶道 ①盆略点前 (4)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 11 回 ／	茶と禅 ①盆略点前 (5)	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 12 回 ／	茶と季節観 ①盆略点前の総まとめ	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 13 回 ／	総まとめ ー茶道と伝統文化ー ①茶会形式 ②盆略点前のまとめ	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20
第 14 回 ／	①実技試験（盆略点前）	講義 実習 面接授業	日常生活での学修内容の実践	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB31F032S		総合教養科目 基本教養科目		アロマテラピー（癒しの文化） Aromatherapy（Cultures of Healing）		2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	アロマテラピーは植物から得られる精油を用いた芳香療法のことでストレスケアに用いられる自然療法の一つです。使用方法としては芳香浴法やトリートメントなどがあり、香りの効果はもちろんタッチケアについても学び、体験していただきます。アロマテラピーを学ぶことで、心も身体も健康で人間関係や自然と調和のとれた生活を目指すものです。									
	キーワード		アロマテラピー 香り ストレスケア トリートメント		学修教育目標	かおりの提案が出来る。 日本アロマ環境協会アロマテラピー検定1級合格。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
この授業では「香り」を楽しむための知識を習得できます。実際に1授業あたり2～3種類の香りを体験していただきます。香りはイメージを思いうかべながら体験すると記憶に残りやすいです。香りを使って行いたいことなどアイデアを思いついたらすぐにメモし、わからないことがあれば教員に相談してください。 授業内容は計画表を参考に予習をして受講ください。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
アロマテラピーの事だけでなく、健康、栄養、環境問題も取り上げます。「公衆衛生学」の理解につながります。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：Simple Aroma かおりのテキスト（予定） 著者名：町 安弥子 出版社：大阪教育図書出版					アロマテラピー検定 公式テキスト					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。			アロマテラピーにおける健康学の知識を習得する。						◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。									
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。									
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。									
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。			香りの選択、提案ができる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					△
		② 働きかけ力			協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。					△
		③ 実行力			目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			クライアントの無言の訴えに素早く気づく。					○
		② 計画力			クライアントに対して香りの提案ができる					◎
		③ 創造力			香りを言語化し表現できる					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					△
		② 傾聴力			クライアントの意図することがわかる					◎
		③ 柔軟性			自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。					△
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。					△
		⑤ 規律性			社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。					△
		⑥ ストレスコントロール力			自他のストレスケアをしてストレスコントロール力をつける					◎
4. 倫理観		① 倫理性			相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	55	45						
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	20						55
	技能に関する評価		5							5
	応用力に関する評価		5	10						15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	15						25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
日本アロマ環境協会 アロマセラピー検定 1 級					かおりの提案が出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	アロマセラピーの基礎　－アロマセラピーの現状－	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 2～14 ページ	15
第 2 回 ／	アロマセラピー基本的な使い方と注意点	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 68～70 ページ	15
第 3 回 ／	精油について（1）　－精油の物性－	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 71～73 ページ	15
第 4 回 ／	精油について（2）　－精油の作用と抽出方法－	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 74～75 ページ	15
第 5 回 ／	アロマセラピーの基材 ・植物油　・水性基材　・その他の基材	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 28～29 ページ、76～77 ページ	15
第 6 回 ／	アロマセラピーの歴史（1）　－先史時代～古代－	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 78～80 ページ	15
第 7 回 ／	アロマセラピーの歴史（2）　－中世～現代－	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 81～85 ページ	15
第 8 回 ／	精油の作用機序（メカニズム） ・嗅覚　・皮膚　・吸入　・飲用	面接授業 講義 第 1 回小テスト	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 86～89 ページ 小テスト範囲 テキスト 68～85 ページ	90
	第 1 回　小テスト			
第 9 回 ／	健康学 1　－栄養と睡眠－	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 90～91 ページ	15
第 10 回 ／	健康学 2　－睡眠、ストレスとメンタルヘルス－	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 92 ページ	15
第 11 回 ／	生活習慣病、ライフステージと健康	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 93～96 ページ	15
第 12 回 ／	アロマセラピーに関する法律	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 100～101 ページ	15
第 13 回 ／	日本アロマ環境協会、ホームケア	面接授業 講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 32～45 ページ、102 ページ	15
第 14 回 ／	総復習　検定試験対策	面接授業 講義 第 2 回小テスト	小テスト範囲 テキスト 2～131 ページ	60
	第 2 回　小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
LLB41S033S		総合教養科目 基本教養科目	アセンブリ・アワー Assembly Hour		4 単位	選 択	講 義	1 年次・ 2 年次	春学期・ 秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	【1 年次】 一年間を通して、高校生活から大学生活への円滑な移行を行う。 学生一人ひとりが大学で学ぶ意味を知り、目標を持ち、学ぶことに挑戦するモチベーションを高め、学生生活を主体的に取り組むことができる。 自身の学生生活および大学での学びについて振り返り、成長につなげる。 【2 年次】 進路選択をふまえ、学生生活の充実を目指す。 学生生活において、主体的な取り組み（体験活動）を実践し、自身が取り組んだ活動について振り返り、成長を実感することができる。 進路選択について考え、就職活動への動機づけを行う。								
	キーワード	大学での学び、高大接続、学生生活のスキル、 主体性、進路選択、人間関係	学修教育目標	【1 年次】 ・学部・学科の教育目的を理解し、自身が大学で学ぶ意味、自らの学修目標を明確にすることができる。 ・大学で学ぶための基礎的スキルや、大学生活に必要な礼儀・マナーを理解して、行動することができる。 ・自身の学生生活および大学での学びを振り返り、成長することができる 【2 年次】 ・進路選択を踏まえ、身につける資質・能力を想定することができる。 ・自身が定めた課題に主体的に取り組み、その取り組みを振り返ること成長することができる。 ・活動を円滑に行うために必要な人間関係を構築することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
大学生活に必要なスキル、将来の進路選択に必要な知識・スキル、社会で活動するために必要なスキル等を身に付ける。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
全ての科目の学修に必要な基礎的スキルを身に付ける。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：大学生 学びのハンドブック 編 者：世界思想社編集部 出版社：世界思想社				資料を適宜配付する。					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。								
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。								
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		主体的な取り組みを通じて、他者と良好な関係を築くことができる						○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		礼儀やマナーの必要性を理解して行動することができる。						○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		学びの基礎となるスキルを身に付け、活用することができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力		すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。					○
		③ 実行力		目的を理解し、目標を設定して行動することができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を把握して、課題を抽出することができる。					◎
		② 計画力		課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。					◎
		③ 創造力		考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。					◎
		② 傾聴力		相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。					◎
		③ 柔軟性		相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。					○
		④ 状況把握力		自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。					○
		⑤ 規律性		ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。					◎
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自らの学修目的を明確にし、将来に向けて計画的に行動することができる。					自らの学修目的を明確にし、将来に向けた計画を立てることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は授業の中で連絡する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。